



高砂香料工業株式会社

サステナビリティ 報告書 2023

2 This is Takasago

- 2 コーポレートビジョン
- 3 事業本部紹介
- 5 財務ハイライト
- 6 グローバルネットワーク
- 7 高砂のバリューチェーン
- 8 こんなところに高砂香料

9 TAKASAGOのサステナブル価値創造ストーリー



- 10 トップメッセージ
- 14 サステナビリティ担当役員メッセージ
- 16 中期経営計画【NGP-1】
- 17 サステナビリティにおける方針・計画
- 18 サステナビリティ・ガバナンス
- 19 マテリアリティ
- 20 ステークホルダー・エンゲージメント
- 21 SDGsとの結びつき
- 22 サステナビリティ行動計画
Sustainability 2030の進捗
- 23 マテリアリティ
 - 気候変動
 - 人権
 - 責任ある調達
 - デジタル化の推進
 - グリーンケミストリー

29 環境・労働安全衛生



- 30 グローバルEHSマネジメント
- 31 気候変動への対応
(TCFDへの取り組み)
- 32 環境
- 35 労働安全衛生 (OHS)

37 社会性報告



- 38 従業員との関わり
- 43 サプライチェーン
- 47 TaSuKI update
- 51 生産
- 52 物流
- 53 研究開発
- 54 イノベーション
- 55 グリーンケミストリー
- 56 品質保証
- 59 投資家の皆様とのかかわり
- 60 地域・社会とともに

62 ガバナンス



- 63 コーポレート・ガバナンス
- 66 リスクマネジメント
- 68 コンプライアンス

71 データ

- 71 ESG ハイライト (外部評価・ESG投資インデックス)
- 71 外部団体・イニシアチブ
- 72 会社概要
- 72 報告書について

ステークホルダーの皆様との
コミュニケーションのために



サステナビリティ報告書 2023



Sustainability Report 2022-2023



ウェブサイト



LinkedIn 高砂サイト

表紙の写真について



ジュレ・フレール社
石鹸や香水、化粧品の広告
で使用されたポスター
1910年代
(高砂コレクション®より)

コーポレートビジョン

▶ 香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続ける

当社グループは、2020年に創業100周年を迎えました。創業以来掲げてきた「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」を創業精神と位置付け、これまで先人たちが培ってきた「高砂らしさ」を取り入れた「香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続ける」を企業理念として定めました。私たちは世界28の国と地域に拠点を設けるグローバルな香料会社として、地域の文化や嗜好性、市場を見据えた信頼される製品を供給しています。また、これまでの長い歴史の中で培った高い技術力と世界各拠点とのネットワークを生かして、より豊かな社会を実現していくことを目指します。

創業精神

技術立脚の精神に則り
社会に貢献する

企業理念

香りを原点とする革新的な技術を通して、
新しい価値を創造し続ける

また、2040年の当社グループの「ありたい姿」としてVision 2040を定めました。Vision 2040のスローガン「人にやさしく、環境にやさしく」とともに、100年にわたり常に高い技術を追求してきた姿勢を今後も継続し、人々の生活に彩りとウェルビーイングをもたらして参ります。また、自然と共生し、自然の恵みを活用するとともに、自然環境の持続性に貢献してまいります。これらの活動を通じて、唯一無二の「かけがえのない」会社であることを目指します。

Vision 2040

人にやさしく、環境にやさしく

- 1 多様な価値観を尊重する
- 2 自然と共生し、人々の生活に彩りを与える
- 3 夢と誇りを持って未知の世界へ挑戦する
- 4 常に高い技術を追求する、かけがえのない会社

事業本部紹介

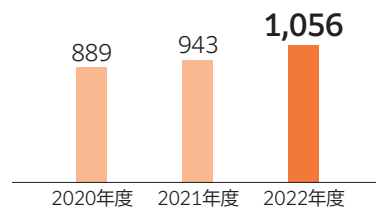
＞ フレーバー

概要

私たちは、おいしさをもたらす“しあわせの力”を信じ、価値あるテイストをデザインしていきます。

食品の香りは、数多くの香気成分からなる複雑な混合物であり、これら複雑な香りと味や食感などの調和があつてこそ本当の「おいしさ」をもたらすことができます。フレーバーは、飲料や食品など幅広いカテゴリで使用されており、日常の食シーンに彩りを与える存在です。

売上高
(億円)



取り組み

私たちは、お客様の製品づくりにおける総合的な課題解決を提供することを目指しています。世の中のトレンドを捉え、生活者を理解した製品コンセプトおよび技術を結集したより価値のあるフレーバーを提供します。また、世界9カ国のフレーバー研究開発部門と連携し、技術のグローバル展開を行っていることも強みの一つです。クリエーション技術だけでなく、オフフレーバー（異臭）を効果的にマスキングするために、嗅覚受容体アッセイを用いた有効なマスキング剤のスクリーニング、食品や飲料用途に応じたフレーバーの形態化、また喫食した際の風味の感じ方や心理生理作用など、お客様の課題解決を日々探求しています。

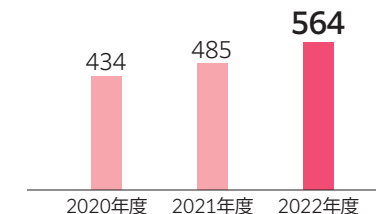
Vivid Flavors®/VIVID® [Vivid Flavors® / VIVID® | Takasago International Corporation](#)
 INTENSATES® [INTENSATES® | Takasago International Corporation](#)

＞ フレグランス

概要

明日のための香り創りー洗剤、芳香剤、入浴剤などの製品に、残香性、拡散性、安定性に優れたフレグランスを提供しています。

売上高
(億円)



取り組み

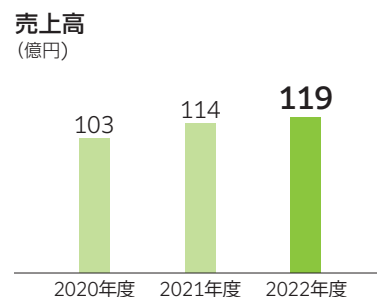
- サステナビリティを念頭に、ウェルビーイング関連技術や高付加価値の香りに関する技術開発で競争力を強化します。
- 私たちの未来を支える「人」「地球環境」「社会」を大切にすフレグランスを目指します。

事業本部紹介

アロマイングリディエーツ

概要

フレーバーやフレグランスの創製に重要な役割を果たすキラル技術を駆使し、革新的でユニークな素材を開発しています。



取り組み

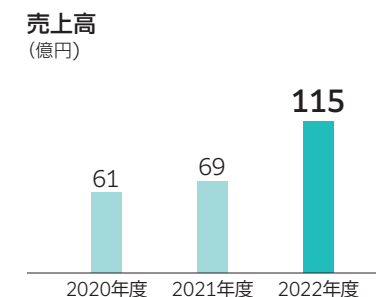
- More with Lessをコンセプトとした素材開発
- 化石原料由来の既存アロマイングリディエーツからBIOSWITCH®素材の開発
- 生分解性を備えた再生可能なアロマイングリディエーツ製品の開発
- Sustainable Scent™ (サステナブル セント) コレクションの拡大

ファインケミカル

概要

ℓ-メントールの触媒的不斉合成の工業化の過程で開発された不斉触媒をきっかけに、高砂香料工業のファインケミカル事業が本格化しました。

製品としては大手製薬会社GMP医薬品中間体、そして電子写真感光体および電子材料等です。また、工業規模での配位子や触媒の提供も行っています。



取り組み

- 触媒・配位子

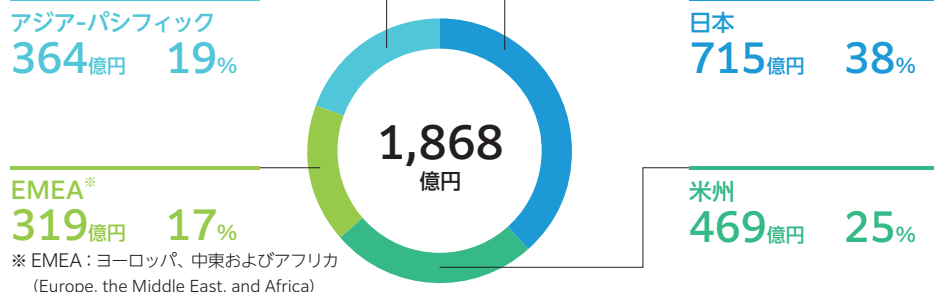
触媒的不斉合成を利用して製造を行うことで、化学工場からの廃棄物を少なくすることに貢献できます。多くの化学工場における廃棄物削減および効率的な製造のサポートを目指し、高砂触媒を広くお客様に提供しています。近年の需要増に対応するため、供給能力を強化しています。
- 連続フロー反応

グリーンケミストリーを突きつめた結果、連続フローを活用してGMP医薬品中間体の商業生産を行っています。

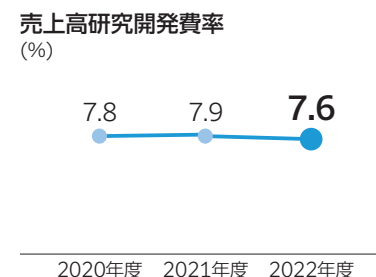
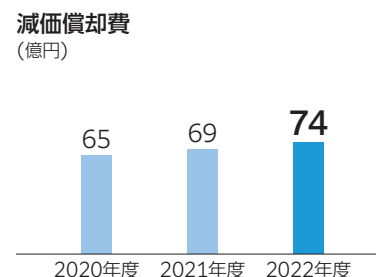
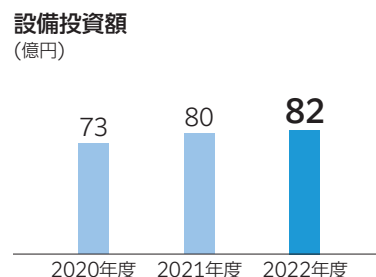
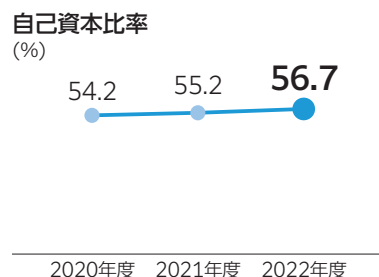
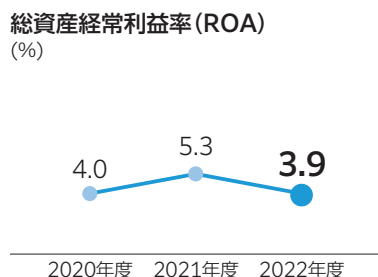
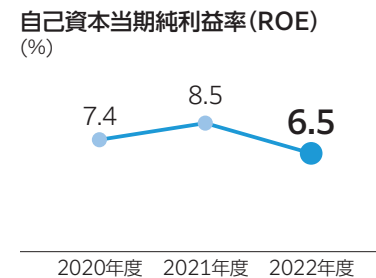
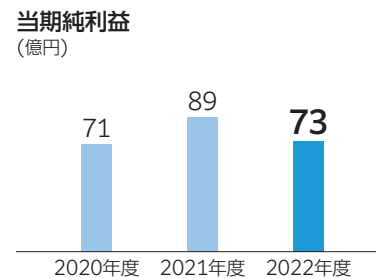
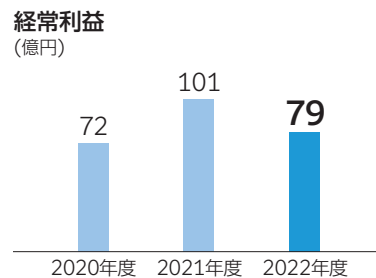
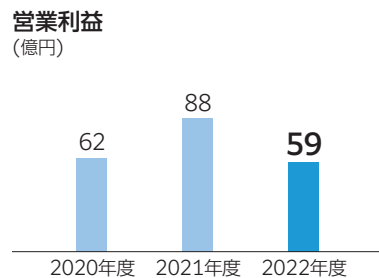
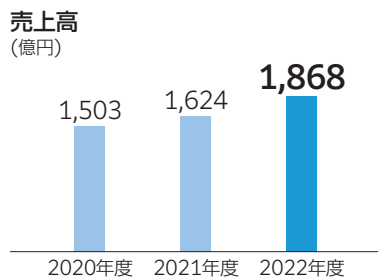
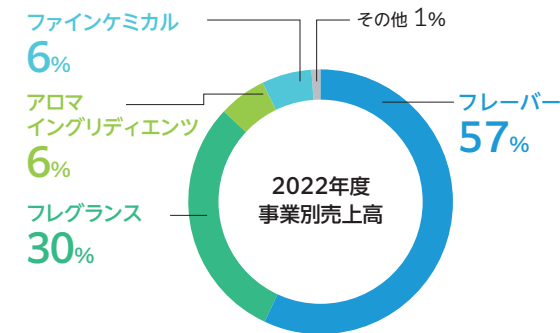
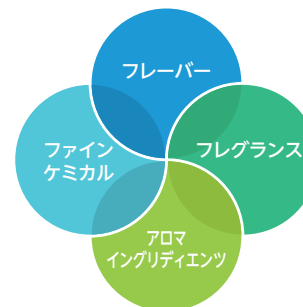
2012年以降、数種類の連続反応器を用いて4件の商業生産に成功しています。

財務ハイライト

2022年度 地域別売上高



4つの事業



グローバルネットワーク

アジア-パシフィック


日本	Takasago International Corporation	       
シンガポール	Takasago International (Singapore) Pte. Ltd.	    
フィリピン	Takasago International (Philippines), Inc.	
タイ	Takasago Import and Export (Thailand) Ltd.	
インドネシア	PT. Takasago International Indonesia	     
	PT. Takasago Indonesia	
インド	Takasago International (India) Pvt. Ltd.	     
パキスタン	Takasago International (Pakistan) Pvt. Ltd.	
中国	Takasago International (Shanghai) Co., Ltd.	 
	Shanghai Takasago-Union Fragrances & Flavors Co., Ltd.	     
	Xiamen Hua Ri Foods Industrial Co., Ltd.	
	Takasago International (Guangzhou) Co., Ltd.	    
韓国	Takasago International Corporation (Korea)	
マレーシア	Takasago International (Malaysia) Sdn.Bhd.	











ヨーロッパ・中東・アフリカ

フランス	Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L.	    
ドイツ	Takasago Europe G.m.b.H.	    
	Takasago International (Deutschland) G.m.b.H.	
イタリア	Takasago International (Italia) S.R.L.	
スペイン	Takasago International Chemicals (Europe), S.A.	   
	Takasago International (España) S.L.U.	
イギリス	Takasago (U.K.) Ltd.	
トルコ	Takasago International Turkey Esans Ve Aroma San. TIC. A.S.	
南アフリカ	Takasago International Corporation South Africa (Pty) Ltd.	
マダガスカル	Takasago Madagascar S.A.	

アメリカ大陸

アメリカ	Takasago International Corporation (U.S.A.)	       
	Centre Ingredient Technology, Inc.	 
メキシコ	Takasago De Mexico S.A. De C.V.	    
ブラジル	Takasago Fragrâncias E Aromas Ltda.	     

Office	Laboratory	Factory	
 Headquarters	 Flavors	 Flavors	 Fine Chemicals
 Sales Office	 Fragrances	 Fragrances	 Food
 Representative Office	 R&D	 Aroma Ingredients	 Natural Resources

高砂香料のバリューチェーン

私たちは様々な原料を扱い、食品・飲料用フレーバー、香水・化粧品・家庭用品用フレグランス、フレグランスの原料となるアロマイングリディエーツ、新薬開発を支えるファインケミカルなどを製造しています。

高砂香料バリューチェーンの強みは以下の通りです。

強固なグローバルネットワークによる安定的かつ持続可能な調達力

- 私たちは公正で信頼できるサプライヤーとの強固な信頼関係を構築し、サプライチェーン全体での継続的なリスク改善を通じて責任ある調達を実現しています。

先進的な研究開発による競争力のある香料技術

- 多様なプロセスで顧客ニーズに柔軟な対応が可能です。
- キーテクノロジーである独自の不斉合成技術をベースに、革新的なアロマイングリディエーツを開発しています。
- 私たちの技術は香料分野だけでなく、高度な技術を要する医薬品中間体やエレクトロニクス産業を支える新規機能性材料など、幅広いファインケミカル分野に応用されています。



こんなところに高砂香料

Morning



洗顔、歯磨き、
マウスウォッシュ

スキンケア製品、
コロン、化粧品



ヨーグルト、菓子パン、
ドレッシング、
インスタントラーメン



衣料用洗剤、
柔軟剤



ファイン
ケミカル

医薬品中間体の提供を通じて、
新薬の開発に貢献しています。

機能性食品、
機能性飲料



だし



Afternoon

アイスクリーム、
ポテトチップス、
チョコレート、缶コーヒー



ヘアケア製品、
シャンプー、
コンディショナー



ルーム
フレグランス



Evening

TAKASAGOのサステナブル 価値創造ストーリー

- 10 トップメッセージ
- 14 サステナビリティ担当役員メッセージ
- 16 中期経営計画【NGP-1】
- 17 サステナビリティにおける方針・計画
- 18 サステナビリティ・ガバナンス
- 19 マテリアリティ
- 20 ステークホルダー・エンゲージメント
- 21 SDGsとの結びつき
- 22 サステナビリティ行動計画
Sustainability2030の進捗
- 23 マテリアリティ





代表取締役社長
榎村 聡

トップメッセージ

Q 2023年3月期の事業の状況及び 2024年3月期の業績予想についてお聞かせ下さい。

2023年3月期は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受ける一方で社会経済活動との両立も徐々に進み、緩やかな持ち直しの動きが見られました。また、世界経済につきましては、ロシアのウクライナへの軍事侵攻、それを発端とするエネルギー市場の混乱、米中の貿易摩擦による経済への影響、世界的なインフレ、為替の変動など不安要素も多くありました。

このような中、高砂香料グループの売上高は前期比15.0%増、過去最高値となりました。

セグメント別では、日本はフレーバー部門において、伸長カテゴリーや新規得意先の開拓に注力し、着実な売上増を実現しました。ファインケミカル部門においては、生産効率の改善等により既存の医薬品中間体の供給可能数量を増加させ、更には新規商材の獲得も実現いたしました。

米州においては、フレーバー、フレグランス部門ともに、マルチナショナル得意先に加えて、国内・地域を地盤とする得意先への拡販も実現し、成長を維持いたしました。ファインケミカル部門においては、新規品の拡販など積極的な営業展開を図ったことにより好調に推移いたしました。

欧州においては、フレグランス部門が化粧品向け等の拡販に注力して好調に推移した他、フレーバー部門においては、アフリカ得意先とのビジネス拡大を実現いたしました。

アジアにおいては、フレーバー部門で注力カテゴリーである飲料およびセイボリー用香料の販売が好調に推移し、エマージングマーケットでの売上も好調に推移いたしました。フレグランス部門では、エアケア、パーソナルケア、ファブリックケアカテゴリーをターゲットに、マルチナショナル・主要ローカル得意先に経営資源を集中させたことにより、好調に推移いたしました。



利益面では、国内外において主力製品ならびに新製品の拡販に注力した他、原材料価格等の高騰に対する取り組みとして価格転嫁等も進めてまいりましたが、営業利益は前期比32.5%減となりました。

2024年3月期は、新型コロナウイルス感染症の経済活動への影響は和らぐものの、今後のウクライナ情勢や資源価格の動向、世界的な金融引き締め等を背景とした各国経済の下振れ懸念などもあり、依然として不確実性が極めて高い状況が続くものと思われま

す。香料業界においては、競合他社との競争環境は厳しい状況が続いておりますが、市場としては、中国や東南アジアでの成長が引き続き期待できる一方、成熟市場である欧米でも底堅い成長が見込まれます。ただし、原材料及びエネルギー価格の高騰、サプライチェーンの混乱等の影響を受け、利益面では厳しい環境となることを想定しております。

Q 最終年度を迎えた中期経営計画についてご説明ください。

2024年3月期は中期経営計画 New Global Plan-1【NGP-1】の最終年度となります。NGP-1では、「海外の成長促進」「国内の利益改善」「サステナビリティの推進」という3つの基本方針に基づき、5つの柱、重点課題を設定しています。

基本方針の一つめ「海外の成長促進」に関しては、近年、売上高、営業利益ともに安定的に成長してきて、グループ全体の業績を支えるようになってきた海外での事業を更に拡大すべく、各拠点において、組織の充実、活性化をはかっています。また、グローバル基幹システムの構築を推進しており、昨年度シンガポール拠点への導入が完了し、グローバルプレートも確立しました。2024年3月期には、米国への導入を完了させ、その後はその他の拠点への導入を進めることで、経営資源を世界規模で統一してまいります。

一方、国内においては市場の拡大が見込めない中で、近年は利益面で厳しい状況にあります。海外での成長が著しいとはいえ、売上高全体の約4割は、今なお国内の売上が占めていることから、安定した収益を生み出す基盤としての役割を担うべく、利益改善を進めております。施策の一つとして、生産体制の見直しによる製造経費の削減を挙げていますが、引き続き自動化、省力化を軸に取り組んでまいります。また、フレーバー・フレグランス製品においても、引き続き事業部門・研究部門・生産部門を中心に検討してまいります。

基本方針の3つめには、「人にやさしく、環境にやさしく」をスローガンに掲げたVison 2040を実現し、長期的な事業の成長を目指す観点から、「サステナビリティの推進」を挙げています。この取り組みの一つにSDGsへの貢献を意識した製品の開発があります。開発に関しては原料、製造方法、製造工程など、多角的な視点から検討を行う必要がありますが、なかでも最新のバイオ技術の導入、それらの技術を用いた製造基盤の強化を促進しております。

これら3つの基本方針に基づき、組織・部門横断的な取組みを推進することで、NGP-1最終年度・2024年3月期は、売上高2000億円の数値目標を達成し、少しでも多くの営業利益を積み上げるべく、全社一丸となって尽力してまいります。

Q サステナビリティの推進について、NGP-1では基本方針の一つに掲げられています。サステナビリティ推進の目的と活動進捗についてお話を伺えますか。

サステナビリティの推進は、今や企業に求められるガバナンスコードであると同時に、お客様からの様々なご要望に応える上でも必須事項になりつつあります。高砂香料グループは、2002年に環境宣言を公表し、それを基点にEHS活動をスタートさせました。現在は、社会面、ガバナンス面においてもより充実させるべく、グループ全体で戦略的にサステナビリティ活動を推進しています。また、Vision 2040では「人にやさしく、環境にやさしく」をスローガンとし、多様な価値観を尊重し、自然との共生を目指しています。この実現に向けたサステナビリティ活動を通じて、持続性のある社会への貢献と共に、企業価値を向上させていきたいと考えております。

当社グループでは2030年に向けた今後9年間のプランを纏めた「Sustainability 2030」に基づきサステナビリティ活動を進めています。

現在取り組んでいるテーマの一つに世界的な気候変動問題への対応があります。2020年4月にTCFD提言に沿って、当社グループの方針(ガバナンス、リスク管理、戦略、指標と目標の4項目)を定め公表しました。2021年5月には国際的なイニシアチブである「Science Based Targets」より、温室効果ガスの削減目標の認定を受け、2030年に達成すべき数値目標を明確にしました。2022年は環境省が支援するプログラムに選出され、Scope 3におけるGHG削減へのアプローチを体系的に学ぶ機会を得ることができました。Scope 1と2については、国内当社グループのエネルギー管理委員会での取組みを海外にも広げ削減方法に関する意見交換を活発に行っています。

GHG排出削減に努めるとともに環境に配慮した製造プロセスや製品作りにも注力しています。製造プロセスにおいては、医薬品中間体の製造を、米国FDAの推奨するグリーンケミストリーに沿った連続フロー方式で行ったり当社独自技術による触媒を用いることにより、エネルギー効率を高めています。一方、バイオケミストリーを活用して環境負荷の低い香料

素材の開発にも注力しています。従来からの国内での生産に加え、2016年にグループ入りしたCentre Ingredient Technology社の独自の生産技術を活用して高収率なバイオ由来の天然香料素材の拡充を図っています。

生物多様性の維持はとても重要なテーマです。当社グループでは、シトラス、ミント、バニラ、コーヒーや合成メントールの出発原料となるミルセンなど多くの天然原料を使用しています。当社グループでは、自然環境の保全のため、「TaSuKI Originals, Care and Comply」のもと、地元コミュニティとの連携を強化しています。その活動の一つに、2019年より開始した米国フロリダ州でのグレープフルーツの植樹があります。フロリダは世界有数のシトラスの産地であり、当社グループも長年グレープフルーツやオレンジなどの精油を購入しています。近年フロリダでは、ハリケーンや病害による被害が多発しており、クロープに大きな影響が出ています。そこで、原料の安定的な供給を視野に、地元の精油加工メーカーと近隣のシトラス農園と協同で、グレープフルーツの植樹プロジェクトが実現しました。2023年で約9割の植樹を終え、プロジェクト初期に植樹したグレープフルーツからは精油の搾油が始まります。

また、マダガスカルバニラ、フランスのラバンディンの生産においても、地元コミュニティとの連携を強化することで、生産農家の生産への不安や負担を軽減する活動も行っています。

一方、生分解性の高いアロマイングリディエントの開発にも注力しています。主としてフレグランス製品の香料素材として使用されているアロマイングリディエントは、生分解が容易で、地球環境、生態系にやさしいことが市場で求められており、大きなテーマとして捉えています。

その他、環境負荷を低減する活動として、水の使用量の削減、廃棄物の削減、3R (Reduce, Reuse, Recycle)の推進などにも取り組んでいます。プラスチック容器の削減も大きな課題です。香料製品に使用するプラスチック容器はバリア性が重要であることから、プラスチックの複数層構造となっています。そのことがリサイクルをより難しくしていますが、プラスチック容器の削減は重要課題であることから、引き続きメーカーと環境負荷の低

い容器への転換を検討していきます。

当社グループのサステナビリティ活動はESGの各分野から構成されていますが、ここでは環境に焦点を当てて進捗を述べさせていただきました。ESG各分野において多くの課題がありますが、これからも一つひとつ丁寧に課題解決に向けた対応をしてまいります。

Q

NGP-1では、グローバル経営基盤の強化の一環として、海外でGlobal SAP Project(基幹系システム統一プロジェクト)を展開されています。One Takasagoの基盤となっていくインフラ構築だと思えます。進捗又今後の計画について詳しく教えてください。

Global SAP Projectは2020年に始まった中長期的な全社的プロジェクトです。経理財務、生産・調達・物流、品質管理がスコープとなりますが、各社各様となっている業務フローを高砂ベストプラクティスという形で統合し、最新の基幹系システムに統一するというものです。2020年からグローバルで使用するテンプレートの作成に取り掛かりました。コロナ禍ということもあり、完成まで2年近く要してしまいましたが、昨年末には最初の導入拠点であるシンガポールで稼働いたしました。2023年は米国での導入作業を進めており、来年には欧州、数年後には日本での導入を計画しています。このような形で基幹系システムを統合しつつ、周辺システムにおいてもグローバル統合を進めていきたいと考えています。

Q

最後になりますが、NGP-1最終年度の抱負をお願いします。

今期(2024年3月期)は、対前年7%増の売上高2,000億円を目指します。営業利益につきましては、原材料及びエネルギー価格の高騰、サプライチェーンの混乱等の影響を受け、対前年約30%減の40億円を予算しています。少しでも多くの営業利益を積み上げる

べく、全社一丸となって種々の施策に取り組んでいるところです。

次期中期経営計画(NGP-2)についても検討を開始しています。今後の設備投資においては、新研究所の建設、国内外の工場の生産能力の増強や老朽化への対応など多くの案件があります。利益面では厳しい時ですが、円安効果を除いても売上高はここ数年非常に順調に伸びていることから、引き続き旺盛な需要に応えられるよう社内基盤をより堅固なものにしていきたいと思えます。

株主の皆様には、当社グループの更なる発展にご期待いただき、これからも長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。



サステナビリティ担当役員メッセージ

サステナビリティの推進について

高砂香料グループでは、サステナビリティの推進を中期経営計画NGP-1の基本方針に据えています。社会の一員として、社会が直面する課題に対し真摯に向き合い、課題解決に向けた活動を積極的に展開しています。同時に、非財務分野における企業価値の向上も念頭に入れ持続性のある会社経営を目指しています。NGP-1の2年目もグローバルな社会的な課題への解決に注力し、気候変動、人権への対応を進めました。

地球温暖化による気候変動は様々な影響をもたらします。極端な気象事象(ハリケーン、洪水、干ばつなど)の発生頻度や強度が増加し、海面上昇による沿岸地域の浸水、生態系への影響、農業への悪影響が挙げられます。高砂香料グループでは、気候変動への適応と緩和を、国際的な枠組みを通して進めています。2020年4月にTCFD提言に沿った情報開示を行いグループの方針と戦略を公表しました。その後、2021年5月にSBT認定を受けたGHG排出削減目標を公開しました。昨年は、環境省の支援事業に採択されたことを受けたコンサルティング会社と約5カ月に渡り「Scope 3におけるGHG排出量削減」に向けた取り組みを行いました。この作業を通じて、Scope 3の9割を占める原料調達の削減に向けて調達本部を中心に体系的なアプローチを検討しました。原単位の高い合成原料をサステナブル原料に置き換えること、主要サプライヤーにLCA(ライフサイクルアセスメント)の開示要請や排出量削減に向けた協働を開始しました。Scope 1と2についても、本社エネルギー管理委員会の進め方を参考に海外各社に削減策案のヒアリングを行い、熱量の大きいエアコン使用、排水処理、生産においては粉末香料の効率的なエネルギー使用などについて改善案を模索しました。エネルギー使用の実態を把握するため適所にモニタリング用のメーターを設置する予定です。また、自社で製造する香料製品のLCAも計算できるようにシステム改修を進めています。環境型商品・プロセスの開発では、引き続きファインケミカル事業を中心として連続フローを活用したビジネスの拡大、バイオテクノロジーでは



取締役 常務執行役員
コーポレート本部長
(サステナビリティグローバル統括)

山形 達哉

2016年にグループ化したCentre Ingredient Technology社も活用し、本社研究所と連携して香料素材の開発に引き続き注力してまいります。

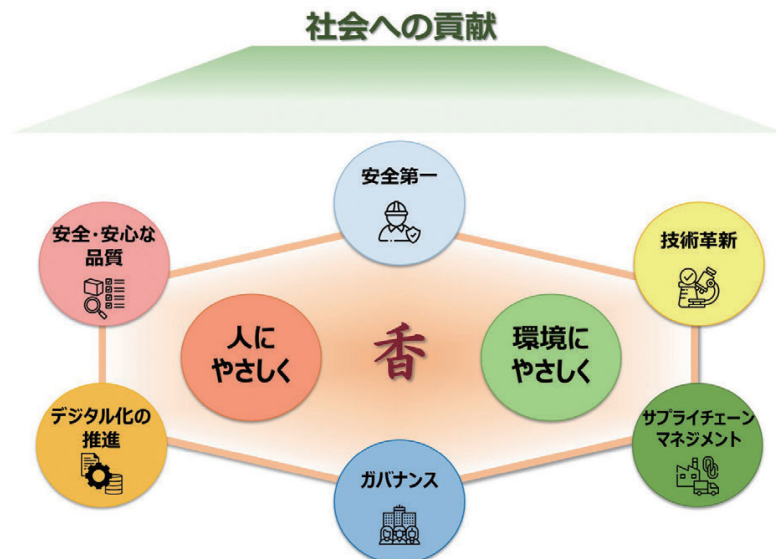
人権は国際法によって保障されていますが、現実には人々の基本的な権利や尊厳が侵害される問題が世界で起こっています。高砂香料グループでは人権を尊重した企業活動を行っています。2019年に「高砂香料グループ人権ポリシー」を策定し、日本弁護士連合会が発行している手引書を参考に人権デューデリジェンス*の仕組みを構築しました。その後、多岐にわたる人権問題を整理し『人権に関する重点課題』としてまとめ、「高砂香料グループ人権ポリシー」に付記しました。同時に、この『人権に関する重点課題』を「高砂香料グループサプライヤー行動規範」にも織り込み、サプライヤー行動規範をお取引先様とも共有し遵守を要請しています。原料調達においては、約1,000社と取引を行っています。その数が多くまた世界中に広がっていることから全社に対して実際の現場監査をすることは困難です。そこで、倫理監査のプラットフォームであるSedexを有効に活用して倫理監査を実施し

ています。このようにして、高砂香料グループの責任ある調達を実現しています。

最後になりますが、マテリアリティの改定について触れさせていただきます。マテリアリティについては毎年取締役会でレビューを行っていますが、2022年のGRIガイドラインの改訂を受け、当社グループのマテリアリティを刷新いたしました。改めて我々にとっての価値を見つめ直し、ステークホルダーに対し分かりやすく情報が届くようにシンプルに作り直しました。

今回はグローバルな社会的な課題を中心にお話しましたが、サステナビリティの行動計画書である「Sustainability 2030」には、その他のすべき重要課題も載せています。こちらはホームページ等でご覧いただければと思います。当社グループでは引き続きサステナビリティを推進し、持続的な社会の発展に寄与できるよう努めてまいります。

* 人権デューデリジェンス：人権リスクの抽出から課題への対応、情報開示に至るプロセス



中期経営計画 NGP-1

当社グループは、Vision 2040で定めた「ありたい姿」に近づくため、中期経営計画「New Global Plan-1【NGP-1】」を2021年度から2023年度にかけて実施していきます。

NGP-1では、成長著しい新興市場を中心とする海外市場において、より一層の成長を促進すること、日本国内の利益の改善に努めること、グローバル全体でのサステナビリティの推進を図ること、を「3つの基本方針」としています。そのため、先の中期経営計画「One-T」の基本方針である5項目をNGP-1でも「5つの柱」と位置付け、これら基本方針、柱に沿ってグループ横断的に取り組むべき「7つの重点課題」を定めました。「7つの重点課題」の達成のため、海外拠点の連携強化、生産能力の増強と効率化、日本を中心とした研究開発機能の充実、を図るとともに、One Takasagoとしてグループ一丸での目的の共有、推進のため、リーダーシップの一層の発揮およびグローバルでのコミュニケーションの強化による従業員のモチベーションの向上に努めてまいります。

3つの基本方針

海外の成長促進

国内の利益改善

サステナビリティの
推進

5つの柱

- 顧客満足度向上
- 事業成長戦略推進
- 技術革新
- 利益体質改善
- 人材開発

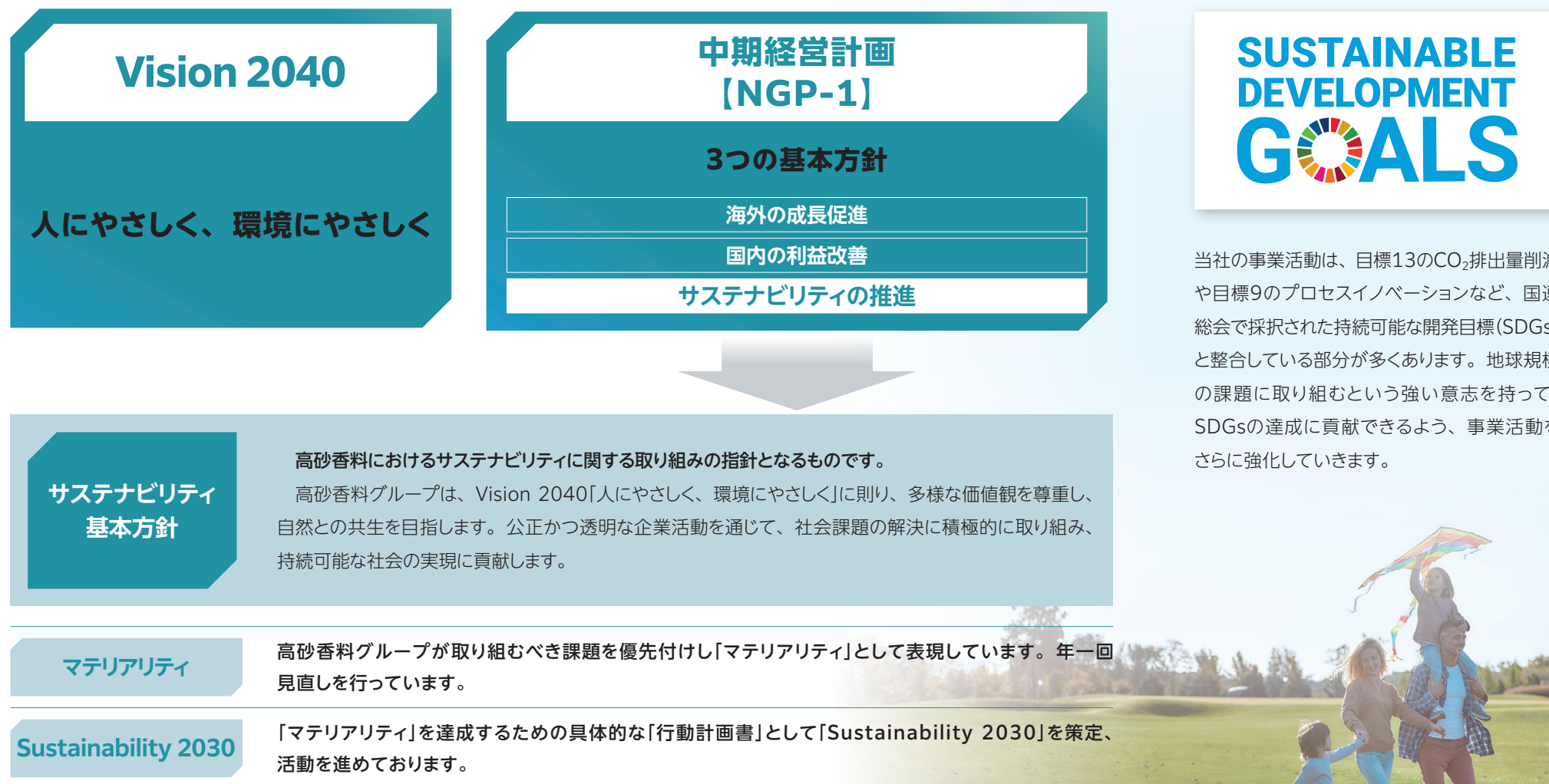
7つの重点課題

- グローバル経営基盤の整備
- 海外拠点事業部門強化のための仕組み作り
- 合成事業生産体制の再構築
- FL・FR[※]製品生産効率性の追求
- 海外拠点と日本を繋ぐ安定した人材の開発
- 先端科学による競争力のある技術の創成
- SDGsへの貢献を意識した製品の開発

※ FL・FR=フレーバー・フレグランス

サステナビリティにおける方針・計画

高砂香料グループは、サステナビリティを成長のための重要な要素と位置付けています。サステナビリティの推進を、現在の中期経営計画「NGP-1」において、3つの基本方針の一つとして位置付けています。2021年に策定した「サステナビリティ基本方針」に沿って、活動を加速していきます。



サステナビリティ・ガバナンス

取締役会

高砂香料グループでは取締役会が最高位の意思決定機関であり、代表取締役社長が議長を務めています。取締役会は主に重要な経営課題や戦略について議論し意思決定を行います。サステナビリティ課題も議題に含まれます。また、当社グループのサステナビリティの方針として、マテリアリティの特定を行っており、取締役会で議論・承認するプロセスとなっています。加えてSustainability 2030(サステナビリティ行動計画)、個別のサステナビリティ課題(気候変動関連や人権など)も取締役会に報告され、議論・意思決定します。

経営会議

当社は取締役による経営判断の効率化と業務執行の迅速化を確保するため、執行役員制を導入しています。執行役員の多くは、取締役社長直属の部門長となります。執行役員による議論の場として、月に一回経営会議を開催しています。マテリアリティを含むサステナビリティ重要課題については、内容に応じて経営会議で議論後に取締役会へ報告し承認を取る形式を採っています。

コーポレート本部

サステナビリティ全般の諸課題の対応を行っている部署としてコーポレート本部を設置し、サステナビリティ推進会議を定期的で開催しています。マテリアリティについてはサステナビリティ推進会議で議論や評価し、取締役かつ執行役員であるコーポレート本部長から取締役会および経営会議に報告します。

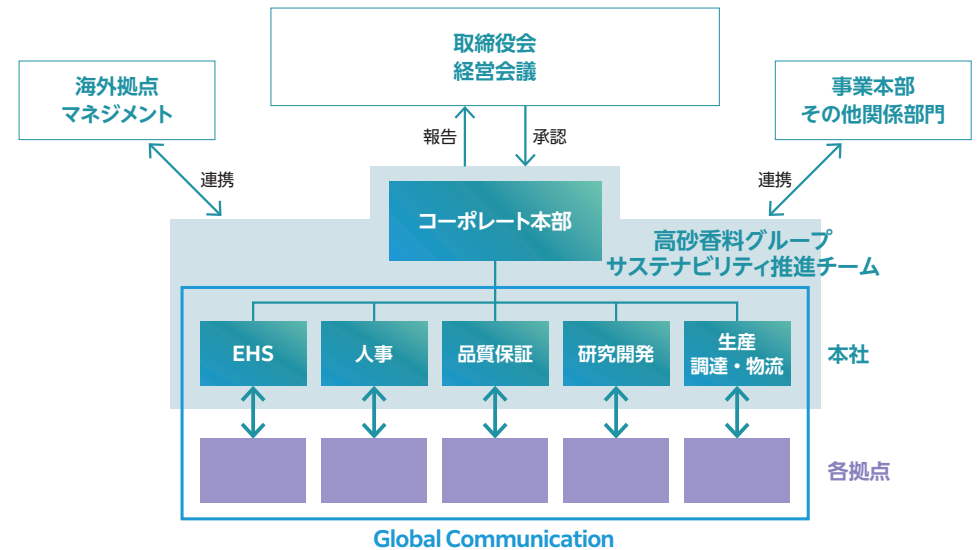
サステナビリティ推進チーム、サステナビリティ推進会議

グループ全体でサステナビリティ推進強化を図る仕組みとして、2017年に「サステナビリティ推進チーム」を発足しました。EHS、人事、品質保証、研究開発、生産・調達・物流の5つの機能を主としたチーム編成です。

チームの発足以来、コーポレート本部長がチームを率いて「サステナビリティ推進会議」を開催し、サステナビリティ戦略を立案、実施、モニタリングを行っています。各部署の担当者の

他、当該部署の担当役員、事業本部部員も会議に出席しています。頻度としては2、3カ月に一度程度のペースで本社にて開催し、情報や懸念事項を共有し、活動の進捗状況を監視しています。

それぞれの機能が拠点横断的なグローバルな協力体制を取っており、企業戦略に従って行動計画を策定・推進する役割を担います。



サステナビリティ推進会議の主な議題



マテリアリティ

当社グループでは、外部の意見を取り入れながらマテリアリティ項目の特定作業を実施しています。

マテリアリティは毎年議論・見直しを行っており、グローバル・レポートिंग・イニシアチブ(GRI)、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス(DJSI)、サステナビリティ会計基準審議会(SASB)などの指標や基準に基づいています。サステナビリティ会計基準審議会(SASB)基準などのサステナビリティに関する世界的な指標や基準および業界の動向に基づいて特定しています。特定された課題については、サステナビリティチームで議論し、ステークホルダーと意見交換を行います。2023年のマテリアリティについては、当社に所属する女性従業員や労働組合と意見交換を実施しました。重要課題の草案はその後、経営会議および取締役会で審議します。

こうした活動を通じて、グローバルな課題に取り組み、社会の一員としての企業責任を果たしています。これは、長期的な企業価値の向上にもつながっています。

2022年度の変更点

2022年のGRIガイドラインの改訂に合わせ、マテリアリティを刷新しました。全てのステークホルダーにメッセージが伝わりやすいよう、価値観を見直し、マテリアリティの考え方をシンプルにしました。また、当社の独自性を強調するため、「香り」「人にやさしく」「環境にやさしく」といった理念をマテリアリティの中心に据えています。

マテリアリティ特定のプロセス

現在のマテリアリティに加え、国際的なトレンドや業界の動向を調査し、重要な課題を特定

サステナビリティ推進会議内で議論

ステークホルダーと意見交換

取締役会で議論・承認



(写真:女性従業員との意見交換会)

マテリアリティ2022-2023

15ページにて掲載

ステークホルダー・エンゲージメント

サステナビリティ活動を推進する上で、ステークホルダーとのエンゲージメントも重要な要素と考えております。

高砂香料グループでは、従業員、サプライヤー、顧客、地域・社会、株主・投資家の5つを主なステークホルダーと定め、それぞれに応じた方法でコミュニケーションを図っています。

	従業員	サプライヤー	顧客	地域・社会	株主・投資家
なぜ 取り組むのか	多様な人材が特性や個性を生かせる環境が新しい価値を創出し続けるための土台であるという認識に立ち、積極的に人材育成に取り組み、働きがいのある魅力的な職場づくりを推進しています。また、従業員が安心して働けるよう、快適で安全な職場づくりにも注力しています。	地球環境に配慮し、社会からの高い信頼を維持できるような原材料だけでなくあらゆるモノやサービスの調達においても、お取引先様との信頼関係が重要であると認識しています。	安全・安心、高品質の製品を納入し続けることが当社グループの供給責任と認識しています。さらに、お客様の製品づくりにおける総合的な課題解決を提供することを目指しています。お客様のニーズの把握、世の中のトレンドを押さえ、生活者を理解した製品コンセプトおよび技術を集結したより価値のある製品を提供します。	地域の方々と良好なコミュニケーションを取りながらボランティア活動や地域交流に積極的に参加しています。また、香料会社として、香り文化の紹介を通じて香りや香料に親しんでいただく活動にも取り組んでいます。	健全かつ透明性の高い企業活動による持続的な成長を通じて、株主・投資家からの期待に応えます。
エンゲージメントの方法	<ul style="list-style-type: none"> 従業員意識調査 自己申告制度 研修、通信教育講座 人事考課、面談 公正な人事制度 労働組合との情報共有（労使協議会等） 福利厚生 内部通報制度（明日への窓） 社内報（「薫風」） 社内レクリエーション 健康経営® 	<ul style="list-style-type: none"> 直接及びオンラインでの対話 各種ポリシーの策定、浸透（サプライヤー行動規範など） 高砂香料 責任あるポリシー（TRSP）の配布と同意書の取得 Sedexの加入およびTRSP SAQの回答要請 サプライヤーへの各種質問書 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客からのSustainability関連要望に対する対応 定期的な監査受審 Sustainability Reportの発行（情報開示） 	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献年次活動計画の策定 WEBサイト 広報誌（「The Takasago Times」） 高砂コレクションギャラリーの設置 教育機関への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 株主総会 決算説明会（年2回） 株主通信の発行など適時適切な情報開示 IRサイト 機関投資家とのミーティング
主なトピックス	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成 ダイバーシティ・インクルージョン ウェルビーイング 労働安全衛生 人権 	<ul style="list-style-type: none"> 責任ある調達 トレーサビリティ 気候変動 人権 リスクマネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> ウェルビーイング 顧客の安全衛生 責任ある調達 イノベーション デジタル化の推進 品質保証 サステナブルな製品開発 	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全 気候変動 生物多様性 人権 社会貢献活動 	<ul style="list-style-type: none"> ガバナンス 透明性 安定した利益確保 将来への投資 気候変動 人権

SDGsとの結び付き

SDGsは、企業にとって事業と社会の双方に価値を創造する機会を提供します。主要な取り組みがSDGsの17の目標達成にどのように貢献するかを整理しました。それぞれの取り組みを着実に進めることで、持続可能な社会への貢献を目指しています。

主なSDGsと結びつく取り組み

	香りによるWell-beingへの貢献、労働安全衛生		再生可能エネルギーの活用、省エネ活動
	SDGsへの貢献を意識した製品の開発		人権、ダイバーシティ・インクルージョン
	TCFD推奨項目の情報開示、SBTi認証の取得		責任ある調達

SDGsと結びつく取り組み 一覧

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
EHS	気候変動						●	●				●		●		●		
	環境負荷低減						●	●		●		●	●		●			
	労働安全衛生			●			●		●		●	●						
社会面	原材料																	●
	責任ある調達																	●
	顧客の安全衛生			●														●
	イノベーション		●	●							●							●
	グリーンケミストリー						●	●						●	●			
	地域コミュニティ								●								●	
	人材育成					●			●									
	ダイバーシティ・インクルージョン					●					●							●
	香りによるWell-beingへの貢献			●										●				
デジタル化の推進										●								
ガバナンス	人権					●			●		●							●
	経済パフォーマンス								●									
	リスクマネジメント								●									
開示	透明性												●					●

サステナビリティ行動計画書「Sustainability 2030」の進捗

私たちは、マテリアリティを達成するために、中長期サステナビリティ行動計画書である「Sustainability 2030」を策定し、2021年4月にスタートしました。この行動計画に基づく活動状況は、当社取締役会において定期的に報告されています。

以下は、2022年度の主な活動の進捗状況をまとめたものとなります。詳細な活動内容や今後の取り組みについては、関連ページをご参照ください。Sustainability 2030のフルバージョンはこちらからご覧いただけます。

項目		Phase 1(2021-2023)の目標	2022年の活動内容	Phase 1の進捗	関連ページ	
1	気候変動	SBTに合致した目標設定および排出量削減案の立案・推進	SBT達成に向け、排出量削減の取り組みを推進致しました。 Scope 1+2排出量： 省エネ活動や再生可能エネルギーの導入についてグローバルに議論を実施。 Scope 3排出量： 環境省主催のサプライチェーン排出削減に関する支援事業に採択され、具体的な削減計画を策定。計画に基づきサプライヤーエンゲージメント活動を開始。		P23, 31, 32, 33	
2	環境負荷低減	温室効果ガスの削減	GHG排出量総量で2030年までに対2019年度比で27.5%削減	グループ全体の温室効果ガス排出量は、前年比で0.6%の増加となりました。	P23, 31, 32, 33	
	水使用量の削減	水使用(取水)量について1%の削減 (2030年度までに対2020年度比で10%の削減)	グループ全体の水使用量は、前年比で0.9%の増加となりました。		P34	
	廃棄物の削減	廃棄物排出量について0.5%の削減 (2030年度までに対2020年度比で5%の削減)	廃棄物発生量は、前年比で29.4%増加しました。また、グループ全体の廃棄物発生量の0.98%が埋め立て処分となりました。(前年度は0.76%)		P34	
3	労働安全衛生	コンプライアンス	・EHS関連法規管理システムの構築 ・定期的な法令順守点検の実施	・管理ツールの更新 ・グローバルポータルサイトの構築		P35
	化学物質管理	化学物質管理状況の調査	・国内外の管理標準を検討		P35	
	ワーク・ライフ・バランスの向上推進	セルフケア、ラインケアの推進のための教育研修の実施	・「健康経営優良法人2022(大規模法人部門)」に認定 ・健康関連セミナーの開催		P41	
4	地域コミュニティ	社会貢献活動に関する年間活動計画書の作成および実行	社会貢献活動に関する年間活動計画表に基づき拠点ごとに活動		P63	
5	グリーンケミストリー	環境負荷軽減を意識した技術・製品の開発	製品の生分解性改良をはじめとする様々なプロジェクトの推進	N/A	P58	
6	責任ある調達	原材料調達	責任ある調達ポリシーの運用	優先度の高い原料サプライヤー1,100社のうち、約750社からポリシー遵守同意書を取得(約68%に該当)		P43
7	人権	第三者機関の知見を活用した人権・労働環境の定期的見直し・改善スキームの構築	ほとんどの事業所が3年ごとに社会監査の一つであるSMETAを受審。必要に応じてグループ内で改善を水平展開。		P24	
		人権デューデリジェンスの継続的実施	2022年においても、グループ全体で人権デューデリジェンスを実施しました。なお、グループ会社での人権侵害は報告されていません。		P24	
8	透明性	非財務情報を中心とした情報開示	開示の充実	Sustainability Report(英文)、サステナビリティ報告書(和文)の発行に加え、公式WEBサイトとLinkedInでのサステナビリティ情報開示を強化		P.1
		製品の環境等へのインパクトに関する情報開示	LCA・Sustainability ID Scoreの検討・導入	LCA：ℓ-メントールに加え、13品目のLCA算定を実施		P32

マテリアリティ

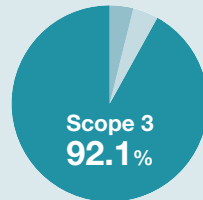
1

気候変動

基本的な考え方

高砂香料グループは、気候変動をグローバル視点で長期的に取り組むべき課題と認識し、マテリアリティの中でも重要度が「非常に高い」項目として特定しています。未来への影響をできる限り抑えるため、気候関連課題への取り組みを進めます。

[t-CO ₂]	2019	2030(目標)	Ratio
Scope 1+2	67,089	48,639	27.5%
Scope 3	781,321	675,842	13.5%

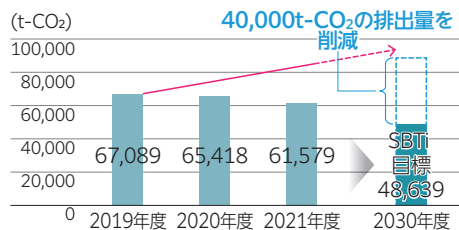


Scope 1+2排出量

Scope 1+2排出量を削減するため、再生可能エネルギーと省エネ活動に注力しています。

再生可能エネルギーについては、すでに100%再生可能エネルギー由来の電力を実現している事業所も存在します。2022年の進捗として、グループ最大の合成品製造拠点であり、エネルギー消費量も最大である磐田工場にて、再生可能エネルギー由来の電力の利用を開始しました。

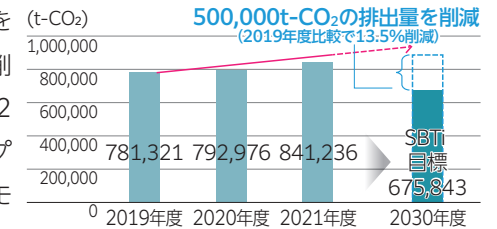
省エネに関しては、エネルギー管理委員やEHS管理者が各拠点の省エネ活動の推進を担っています。具体的には、エネルギー効率向上のための設備更新、LEDの導入、エネルギー使用の見える化などを実施しています。これらの事例はグローバルに共有され、グループ一丸でエネルギー消費の合理化に励んでいます。



高砂シンガポールの太陽光パネル/高砂珈琲磐田工場の冷熱設備(設備更新)

Scope 3排出量(サプライチェーン排出量)

GHG排出量の92%がScope 3であることを考慮すると、目標達成のためには、Scope3削減にさらに力を入れる必要があります。2022年、当社グループは、環境省が進めているサプライチェーン(SC)全体の脱炭素化推進事業のモデル企業に選定されました。この支援事業下でコンサルティングを受けながら、Scope 3排出量の削減施策を検討致しました。検討した内容を元に、今後削減施策の実行に努めます。



CDP

高砂香料グループは、2010年よりサプライチェーンプログラムを通じてCDP*に対応しています。2022年度のCDP気候変動分野は「B」スコアという評価でした。また、サプライヤーエンゲージメント評価では、CDPからサプライヤーエンゲージメントリーダーに選定されました。なお、水セキュリティは「B」、森林(コモディティ：パーム油)は「B」という評価結果でした。今回の結果は、当社グループの環境スチュワードシップとサプライヤーエンゲージメント活動が高く評価されたものと考えます。私たちは、これからも排出量の削減と気候関連リスクへの適応に努め、持続可能性を追求していきます。

※ 企業や行政に対して環境に対する取り組みの情報公開を求める活動を行う非営利組織。近年は気候変動に加え、水セキュリティや森林といった環境分野にもプログラムを拡大しています。また、スコアリングメソッドロジーにAからDまでのスコアが付与され、企業や行政団体の環境施策の進捗を評価します。

今後の取り組み

高砂香料グループは、気候変動への取り組みを加速化し、様々なアクションを具体化しています。GHG排出量削減活動については、2030年のSBT削減目標を達成に向け、省エネ活動や再生可能エネルギー導入等を推進しています。また、製品のLCA算定も進め、顧客ともエンゲージメントを強化していく予定です。加えて、気候変動機会およびリスクへの対応については、グリーンケミストリーの推進やサプライチェーンのレジリエンス強化を更に推進しています。引き続き様々な施策を検討および実施し、カーボンニュートラル社会に向けて貢献できるよう努めています。

人権

基本的な考え方

高砂香料グループは、人権を尊重した企業活動を行っています。

人権侵害に対する当社の姿勢をより明確にするため、2019年に「高砂香料グループ人権ポリシー」を策定しました。それに加えて、日本弁護士連合会が発行している手引書を参考に人権デューデリジェンス*の仕組みを構築しました。2021年、多岐にわたる人権問題を整理し『人権に関する重点課題』として考え方をまとめ、「高砂香料グループ人権ポリシー」に付記しました。また、サプライチェーン全体での人権への取り組みも強化すべく、この『人権に関する重点課題』を「高砂香料グループサプライヤー行動規範」にも織り込みました。原料のみならず全てのモノ・サービスを調達しているお取引先様に、同行動規範をご説明し遵守をお願いすることでサプライチェーン全体にわたる人権対応の浸透を図っています。

* 人権デューデリジェンス：人権リスクの抽出から課題への対応、情報開示に至るプロセス

へ報告しています。その後サステナビリティ報告書などを通じて情報開示しています。

2022年度の実施結果では、当社グループにおける人権侵害の報告はありませんでした。

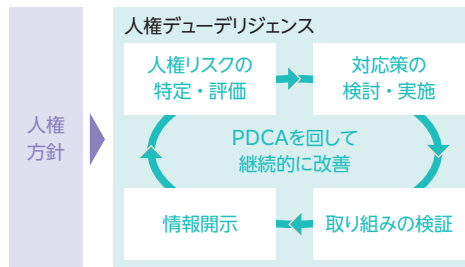
ビジネスフローにおける人権・労働基準の見直しスキームの構築

高砂香料グループでは、人権・労働環境の定期的な確認のため、企業がサプライチェーンにおける労働条件を管理・改善するためのオンラインプラットフォーム「Sedex」を活用しています。企業が工場単位で監査の受審と質問書の回答を行い、その結果が自社およびバイヤー企業で閲覧できる仕組みです。当社各製造拠点では3年に一度監査を受審し、監査結果については関連部署と連携を行い積極的な改善活動につなげています。また、当社もバイヤー企業として、Sedex内でひも付きのあるお取引先様の監査結果、質問書内容を確認し、サプライチェーンの人権・労働環境の管理にもSedexを活用することで、必要に応じてサプライヤーとコミュニケーションを図ることができます。この仕組みを通して、サプライチェーンの人権・労働環境を定期的に監視・評価しています。

戦略 人権デューデリジェンスの継続的实施

日本経済団体連合会が公表したガイドラインを参考に、2019年、人権デューデリジェンスの実施手順を策定しました。ガイドラインに沿ってチェックリストを作成し、当社の事業活動や世界の動向を踏まえ、毎年更新しています。2022年度は、調達、EHS、人事総務に重点を置いて実施しました。調達に関しては、米国労働省が作成した「児童労働または強制労働によって生産された商品リスト」を用いて原材料をチェックしました。

私たちの次のステップとして、チェックリストを用いて、毎年全拠点(会社単位)の関連部門にヒアリングを行うこととなります。実施後は結果を集計し検証を行い、その結果を取締役会



通報・相談ホットラインの設置

人権に関する内容を含むコンプライアンスホットラインを国内外各拠点に設置しています。2020年には通報窓口の制度を統一化、さらなる改善を図るべく再整備をしました。今後は改善内容が反映されているかをモニタリング・検証を行ってまいります。

責任ある調達

なぜ取り組むのか

昨今、資源の枯渇や地球温暖化などの環境問題、労働災害や人権問題などの社会問題が世界中で懸念され、ますます深刻化しつつあります。このような背景をふまえ、企業には責任ある調達の強化への要求が年々高まっており、より強固で互恵的、かつ透明性の高いサプライチェーンがますます必要になってきております。すべてのビジネスパートナーのご支援とご協力を得ながら、サプライチェーン上でのリスクを特定し、継続的な改善を行い、持続可能性向上のための最適な対策を講じることが、ビジネスを継続する上で重要になってきております。

戦略

「高砂香料 責任ある調達ポリシー」の運用

「高砂香料 責任ある調達ポリシー」を定め、お取引先様やその協力事業者の皆様にも、この方針・考え方を共有しご理解いただくよう、配布と同意書ご提出のお願いを進めております。

また、遵守状況を確認するため、原料サプライヤー様に「高砂香料 責任ある調達ポリシー」セルフアセスメント質問書またはSedexの質問書に回答いただき、人権、労働、環境、腐敗防止の分野における調達活動のリスクと潜在的な影響を調査しています。サプライチェーンに悪影響を及ぼす可能性が確認された場合は、早急に改善計画を立て、サプライヤー等のステークホルダーと連携して是正措置を講じます。

2022年度の進捗・成果

2021年に高砂香料グループ全原材料サプライヤーに「高砂香料 責任ある調達ポリシー」を配布完了しました。2022年度は、約1,100社中約750社(68%)より本ポリシーに対する同意書を取得しました。また、同意書を提出したサプライヤーに対し、遵守状況を確認するため

のセルフアセスメント質問書またはSedexへの入会を依頼しました。すでに高砂香料グループとSedex上でリンクがあったサプライヤーも含め、Sedex上で高砂香料グループとリンクを結んでいるサプライヤーは約260社です。

現在、サプライチェーン上のリスクを特定する手順やCSR監査ツールを開発するため、第三者機関とプロジェクトを開始しています。

今後の取り組み

2023年度も引き続き、サプライヤーから「高砂香料 責任ある調達ポリシー」の同意書の取得を進めています。同意書をご提出いただいたサプライヤーにはセルフアセスメント質問書またはSedexへの入会をお願いします。回答をいただいたサプライヤーには、フィードバックを行い、取り組みの状況に改善が必要な場合は、協働して改善してまいります。CSR監査準備プロジェクトを通じて、サプライチェーン上のリスクを特定するためのガイダンスや、CSR監査の実施計画を策定する予定です。



デジタル化の推進

基本的な考え方

高砂香料グループは、持続的成長のための企業インフラとして、ITの継続的な整備・活用に注力しています。

基幹システムや周辺システムのグローバル統合、モノづくりの自動化、人工知能(AI)の活用に加え、リモートワークにも柔軟に対応できるペーパーレス化を推進しています。デジタル化の推進は、業務フローの標準化を実現し、「One Takasago」のもと、高砂香料グループの生産性を向上させるために不可欠な戦略であると考えています。

また、多様化・巧妙化するサイバー攻撃に対応するため、ITセキュリティの継続的な強化は喫緊の課題です。当社では、脆弱性診断ツールを活用するなど、攻撃者のネットワーク侵入を防ぐための対策を継続的に実施しています。

これらの課題を2030年までの青写真として「高砂GIT戦略-4つのプラットフォーム*」にまとめました。この青写真に沿って、当社グループの企業活動の根幹を支えるITの整備・活用とセキュリティの強化を着実に進めていきます。

※ 4つのプラットフォーム：ITセキュリティ強化、GSAP/周辺システム統合、コーポレート部門のデジタル化、その他マネジメント

1 ITセキュリティの強化

デジタル・セキュリティ対策の改善は、最も重要な取り組みの一つと位置付けています。技術面では、多要素認証や脆弱性診断ツールのグローバル導入、そしてグローバルセキュリティ専門チームの設置などを計画しています。ソフト面では、定期的な社内ルールの見直しや、継続的なeラーニングの実施など、啓発活動を強化しています。

2 GSAP/周辺システムの統合

各拠点へのグローバルSAPシステム導入に先立ち、2020年からグローバルテンプレートの開発に着手しました。世界的なパンデミックの影響もあり、スケジュールはずれ込みましたが、開始から約2年を経て、プロジェクトを完了しています。そして2022年、SAP S4/Hanaを最初に導入したシンガポール拠点で、本稼働を開始しました。

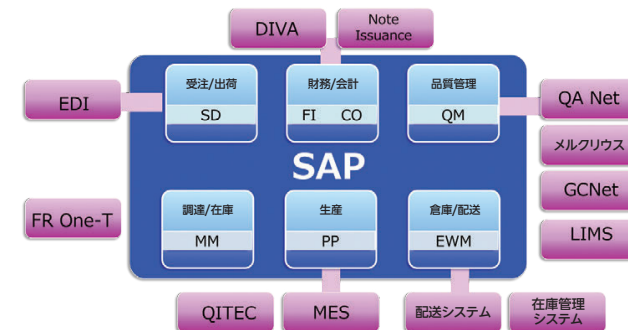
■ モジュールの範囲



このプロジェクトは、基幹システムをSAPにグローバル統合することに加え、業務プロセスを高砂のベストプラクティスに合わせることを主眼としています。まずは海外拠点からスタートし、日本本社への導入を目指します。2025年以降は、研究開発、EHSにも導入範囲を拡大する予定です。

■ 周辺システム

これも長期的なプロジェクトです。グローバルデザインを作ることは将来にとって非常に重要であり、グローバルな全てのシステムをこのアーキテクチャに従って設計することが可能となります。



3 コーポレート部門のデジタル化

グローバルITは、各部門が目指すデジタルトランスフォーメーションを支援します。デジタル化はグループ全体の生産性を向上させるために不可欠な戦略であるとの認識の下、製造現場で導入されている現在の自動化システムに加え、香料開発や生産計画でAIの活用を多方面から検討しています。また、AIを活用した自動認識技術や産業用ロボット、コンベヤなどを組み合わせることで、従来の人に依存した香料調合の生産工程を変革できる可能性があると考えています。さらに、これらの自動化設備をグローバルに統合しERPシステムと連携させることで、安全性、生産性、製品品質を高いレベルで実現することを目指しています。

4 その他マネジメント

グローバルITは、効率的に管理された(バーチャルな)グローバル組織を構築に挑戦しています。グローバルITの機能は、グローバル予算(ローカルIT予算に基づく)を管理し、ローカルプロジェクトを注意深く観察し、業務の重複や非効率を避けることができます。

■ 人材開発

世界的なデジタル化の進展に伴う人材不足に対応するため、ICTに関心のある新卒・中途社員の採用や、社内にいる人材の活用・育成に力を入れています。

例えば、現地の人材をグローバルプロジェクトに組み入れることで、グループ全体の人材育成の機会になっています。グローバルSAPプロジェクトでは、上級職から日々の業務に携わる一般社員まで、多様なメンバーでチームを構成しています。また、研修目的も含めて若手の参画も積極的に支援することで、将来を見据えた計画的な人材育成を行っています。

ボイス

2021年10月12日は GSAP TIS SAPプロジェクトの キックオフの日でした。

サイト・コーディネーター
ヴァレリー・カム



TISチームにとって、SAP H/4HANAシステムを使用して高砂のベストプラクティスを導入する最初の高砂拠点となることは、とてもエキサイティングなことでした。

現地チームはこの大きな変化を心待ちにしていました。同時に、この先には多くの未知の課題が待ち受けており恐ろしくもありました。簡単な道のりではないことは誰もが分かっていました。

TISは、20年以上前の古いレガシーシステムからSAP S4/HANAへの移行準備に約12カ月半を費やし、ついに2022年11月1日はTISのSAPゴーライブの日を迎えました。

プロジェクトメンバーは、本当に素晴らしいチームプレーヤーでした。彼らの“ネバゲーブアップ”の精神と、グローバルプロジェクトオーナー、ローカルマネジメント、GSAPチームのサポートがなければ、この大きなマイルストーンに一緒に到達することはできなかったでしょう。しかし、現在に至るまで、私たちのシステムはまだ安定しておらず、あちこちに問題がありますが、2023年には事態が好転し、より強く成長すると信じています。

今振り返ってみると、最大の課題は以下の通りでした。

- レガシーシステムとSAPの間でマスター・データに大きな隔たりがあり、予想外のリソース増が必要となりました。
- 人々の意識を変えるのは難しく、それは“何事も成功するまでは不可能に思えるものである”でした。
- TISは初めてのSAPユーザーだったので、すでに経験豊富なSAPユーザーである他の拠点と比べると、トラブルシューティングを迅速に行うには経験が足りなかったかもしれませんが、非常に協力的で心強いマネジメントチームとGSAPプロジェクトチームに恵まれて、本当にラッキーでした。

グリーンケミストリー

基本的な考え方

「香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続ける」という企業理念の下、研究開発に関わるNGP-1重点課題として「先端科学による競争力のある技術の創成」「SDGsへの貢献を意識した製品の開発」を掲げており、これらの課題解決に向けてもグリーンケミストリーは重要な要素と捉えています。研究開発では、SDGsを念頭に、環境負荷低減やエネルギー効率に配慮したプロセス開発、再生可能資源ならびに未利用資源を利用した素材・製品開発を通じて、Vision 2040に掲げた「人にやさしく、環境にやさしく」に則った研究開発を目指し、グリーンケミストリーを推進してまいります。

戦略

グリーンケミストリー12箇条を念頭においた環境にやさしい研究開発の推進

研究開発では、環境負荷の低減に向けて、当社独自の触媒技術の活用や最新のバイオ技術の導入ならびに環境負荷の低いプロセス開発により、エネルギー、水の効率的利用や温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。またそれと同時に、限られた天然資源の有効利用に向けて、再生可能資源の探索・利用、代替素材開発による天然香料素材の使用量削減、未利用資源の活用などにも積極的に取り組んでおり、これら環境にやさしい研究活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

2022年度の進捗・成果

アロマイングリディエント開発では、BIOSWITCH®として石油由来原料から再生可能原料への転換を推進しています。再生可能原料を用いた、Bio-based値が高く生分解性の良い香料素材の開発に注力し、グリーンケミストリーを推進する重要な技術の一つであるバイオ技術の導入・活用についても、オープンイノベーションを活用して積極的に進め、一定の成果が得られております。現在、その一環として、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)「カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発/研究開発項目 [3] 産業用物質生産システム実証」事業への取り組みを進めています。

合成分野では、磐田工場の敷地内に置かれたプロセス開発研究所で反応工学的なデータを収集し、蒸留シミュレーターおよびプラント情報管理システムを用いて香料重要中間体の蒸留条件の最適化を検討することで、生産性を12%向上することができました。また昨期、製品化に至った医薬品中間体の一つでは、反応条件の改良により製造プロセスで使用する有機溶媒使用量を従来法に比較して48%削減しています。現在、天然資源の持続可能な利用のために、触媒の製造プロセスの最適化および触媒使用後の貴金属回収についての取り組みも強化しており、今後も環境負荷の低減に向けた検討を継続的に進めます。

今後の取り組み

NGP-1重点課題の課題解決に向け、引き続きVision 2040「人にやさしく、環境にやさしく」に則った上記の戦略に基づき、グリーンケミストリーを中心とした環境にやさしい研究開発を推進してまいります。

環境・労働安全衛生

30 グローバルEHSマネジメント

31 気候変動への対応(TCFDへの取り組み)

TCFD提言に沿った気候変動戦略の策定と情報開示

32 環境

エネルギー／大気への排出

水と廃水

廃棄物

35 労働安全衛生(OHS)

「高砂安全の日」2023



グローバルEHSマネジメント

基本的な考え方

安全統括本部安全管理部では、高砂香料グループの持続的なEHS文化を構築するためにEHS Missionを策定しました。

EHS Mission :

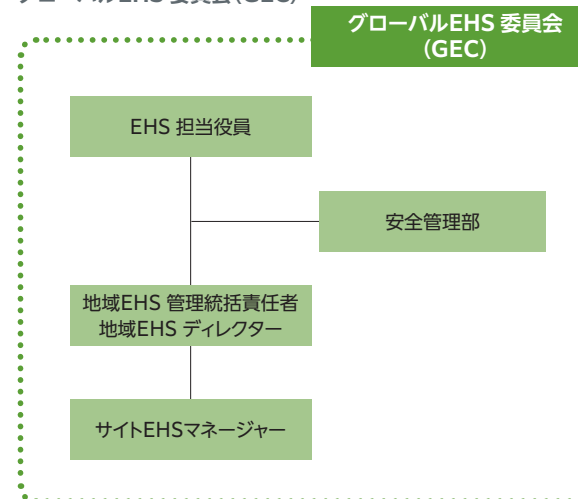
高砂香料グループは持続可能なEHS文化を構築するために、以下を実行します。

- 当社事業に適用される法令およびその他要求事項、ならびにステークホルダー要件に対応します。
- 事故、病気、環境への悪影響を回避するために、私たちの活動に内在するリスクを特定して管理します。
- 天然資源の保護、汚染の防止、温暖化効果ガス排出量の削減を計画し、環境負荷低減を実現します。
- 事業計画と意思決定にEHSの要素を組み込みます。

また、この「EHS Mission」とともに、2021年度から2030年度までのサステナビリティ推進10カ年計画である、「Sustainability 2030」で気候変動(温室効果ガス(GHG)排出量の削減)、環境負荷の低減(資源の持続可能な利用と汚染の防止)、労働安全衛生の推進などのEHS活動に関する目標を設定しました。この10カ年計画は、初年度に引き続き2年目の今年度もEHS活動の目標を達成しました。

高砂香料グループでは、EHS活動の標準化を推進し、グローバルに計画を実行するために、グローバルEHS委員会(Global EHS Committee: GEC)を組織しています。GECは、グローバル生産拠点のEHS担当者で構成されています。

グローバルEHS委員会(GEC)



EHS宣言

高砂香料グループは、グループ経営の基盤の一つとして「EHS宣言」を制定しています。

このEHS宣言は、高砂香料グループのEHS活動におけるビジョン・価値観を世界28の国と地域の全ての従業員と共有するために、11の言語で作成されています。EHS宣言において、全ての事業活動に対し、EHSを最優先の行動原則とすることとしています。



気候変動への対応(TCFDへの取り組み)

TCFD提言に沿った気候変動戦略の策定と情報開示

高砂香料グループは、2019年11月に気候関連財務情報開示タスクフォース(以下「TCFD」)の提言への賛同を表明し、TCFDの提言に沿った形での気候変動戦略の策定と情報開示を行っています。TCFD提言では「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」の4つの基礎項目が設定されており、項目ごと、特に気候関連リスクと機会における考えや取り組み、についての開示が求められます。TCFDの提言に沿った情報開示を拡充することで、より一層、持続可能な社会の実現に貢献して参ります。

ガバナンス

ステークホルダーの皆様から信頼されるよう、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。当社は、気候変動に対する取り組みをマテリアリティの最重要事項と位置付けており、方針や施策について定期的に取り締役会で議論しています。なお、エネルギーや温室効果ガスに関する具体的な諸課題については、GECで掘り下げた議論・対策の検討を行っています。

戦略

気候変動に伴うさまざまなリスク・機会を事業戦略上の重要な観点の一つと認識しています。サステナビリティ推進チームのメンバーでシナリオ分析を実施し、2030年以降の中長期にわたる時間軸でのリスク・機会の特定を行いました。

-気候関連リスク-

豪雨や洪水などの物理的リスクによる自社拠点の操業を含むサプライチェーンへの影響を大きなリスクとして認識しています。複数のグループ生産拠点において、既にそのような災害に影響を受けた経験があるため、重要拠点においてBCP策定および事業継続力の強化により、影響の低減に取り組んでいます。

-気候関連機会-

2022年度はウクライナ危機に端を発したエネルギーコストが上昇し、全世界的にエネルギーセキュリティが問題となりました。対応策として、エネルギー効率改善に関連する施策を推進し、エネルギーコスト改善による利益改善、またエネルギー供給のレジリエンスを強化しました。特に省エネ活動については、当社は長期にわたり様々な施策を実行しています。

- より高効率の燃料への切り替えの推進(例：重油からLNGへの転換)
- 省エネ・省資源型生産設備への更新
- 廃熱回収システムやコージェネレーション装置の導入
- 設備運転の自動化や運用方法の見直し、生産工程の変更によるエネルギー消費量およびGHG排出量の削減
- 適切な設備の保守・点検
- 照明のLED化の推進
- 環境教育に加えエネルギーや気候変動に特化したトレーニング



加えて、プロセスイノベーションを通じた低炭素製品や技術の開発を大きな気候関連機会と認識しており、全力で取り組みます。

リスク管理

高砂香料グループは、安定した事業活動を継続するために、重要な事業リスクを定期的に洗い出し、影響の回避や軽減を図る対策に努めています。当社では、取締役会が損失・危険につながるリスクを総合的に評価・判断できるよう、リスク管理委員会を設置しており、報告された状況や調査結果を元に事業に伴う経営インパクトの分析・評価と対応策の審議・立案を行っています。気候変動によるリスクは、2018年7月に発生した西日本豪雨で、操業に影響した経験もあり、重要項目としてリスク管理委員会にて議論し、取締役会へ上程・報告を行っています。

また、当社は研究開発本部・国内外の主要生産拠点を登録範囲として環境マネジメントシステムISO14001を取得しており、各事業所における環境に関するリスクを把握・管理しています。定期的にISO内部監査も実施しています。

指標と目標

気候変動に取り組むため、GHG排出量や削減率をKPIとしてモニタリングし開示しています。また、重要な指標であるGHG排出量については、第三者検証を取り入れております。詳細については、本誌の環境情報をご参照ください。

環境

エネルギー／大気への排出

高砂香料グループで使うエネルギーのほとんどを生産現場やオフィスで使うための購入電力で賄っています。

各拠点では省エネ・省資源型の設備やプロセスの採用、設備等の運用方法の見直し、照明のLED化の推進、適切な設備の保守・点検を通じ、エネルギー使用量とCO₂排出量の削減に取り組んでいます。また海外拠点では太陽光発電設備の導入も推進しています。今後もエネルギー使用量の削減活動を継続するとともに、再生可能エネルギーの利用やCO₂排出量の少ない燃料への切り替えを推進していきます。

2022年の結果について Scope 1、2 排出量

2022年は、各拠点の省エネ活動によりエネルギー使用量は製品1トン生産当たり1.1%減少するとともに、排出量もSBTiの基準年である2019年と比較して7.7%減少し、目標としていた7.5%を上回るペースで推移しています。今後もSBTi目標の達成に向けて排出量削減活動を継続していきます。

サプライチェーン(Scope 3) 排出量

排出量の把握が進んだことで2022年度の排出量はSBTiの基準年度である2019年度に対して20%増加しました。最も排出の多いカテゴリー1の調達活動からの排出量削減を図るべく、2022年度に、環境省が進めているサプライチェーン全体の脱炭素化推進事業に応募、モデル企業に選定され、削減施策の検討を行いました。今後はこの施策を中心にScope 3排出量の削減を推進する予定です。

組織内のエネルギー消費量(エネルギー消費量の削減)

	2021	2022	前年度からの変化(%)
非再生可能エネルギー源に由来する総燃料消費量(GJ)			
都市ガス	407,388	384,675	-5.6%
LPガス	7,145	8,706	21.8%
LNG	70,713	54,519	-22.9%
天然ガス	5,651	35,517	528.5%
A重油	33,768	31,847	-5.7%
軽油	6,687	6,536	-2.3%
灯油	263	193	-26.7%
ガソリン	7,801	7,892	1.2%
廃油	46,364	50,518	9.0%
直接的なエネルギー使用量	585,781	580,403	-0.9%
購入した電力、暖房、冷房、蒸気の消費(GJ)			
購入した電力	677,365	646,724	-4.5%
購入した蒸気	50,031	50,498	0.9%
間接的なエネルギー使用量	727,396	697,222	-4.1%
再生可能エネルギー源に由来する総燃料消費量(GJ)			
バイオマス燃焼量	43,338	30,361	-29.9%
購入した電力	112,541	134,691	19.7%
発電した電力	0	272	
総再生使用エネルギー量	155,879	165,324	6.1%
エネルギー総消費量	1,469,057	1,442,949	-1.8%

エネルギー原単位

	2021	2022
1トン製品生産あたり原単位(GJ)	19.03	18.81

温室効果ガス排出量 *Scope 1算定に含まれるガス ; CO₂, CH₄, N₂O, HFCs, SF₆

	2021	2022	前年度からの変化(%)
温室効果ガス排出量			
Scope 1*	30,076	29,676	-1.3%
Scope 2	31,503	32,269	2.4%
合計(Scope 1 + 2)	61,579	61,945	0.6%

温室効果ガス排出原単位(Scope 1 + 2)

	2021	2022	前年度からの変化(%)
合計(Scope 1 + 2)	0.80	0.81	1.2%

各カテゴリの排出量

	CO ₂ 排出量(t)	温室効果ガス 総排出量に対する比率
cat 1 購入した製品・サービス	864,513	86.40%
cat 2 資本財	23,369	2.34%
cat 3 Scope 1, 2 に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	12,312	1.23%
cat 4 輸送、配送(上流)	26,549	2.65%
cat 5 事業から出る廃棄物	5,140	0.51%
cat 6 出張	509	0.05%
cat 7 雇用者の通勤	5,480	0.55%
cat 8 リース資産(上流)	N/A	N/A
cat 9 輸送、配送(下流)	N/A	N/A
cat 10 販売した製品の加工	N/A	N/A
cat 11 販売した製品の使用	N/A	N/A
cat 12 販売した製品の廃棄	726	0.07%
cat 13 リース資産(下流)	61	0.01%
cat 14 フランチャイズ	N/A	N/A
cat 15 投資	N/A	N/A
Scope 3	938,659	93.81%
Scope 1	29,676	2.97%
Scope 2	32,269	3.22%
温室効果ガス総排出量	1,000,604	

※ 対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日

第三者検証証明書はこちらから

水と廃水

高砂香料グループは、事業活動を安定的に継続していく上で、水は必要不可欠な資源であると認識しています。

現在、国内外の生産拠点では十分な水量と安定した品質の水が確保されていますが、気候などの状況の変化により、利用可能な水量や品質が低下するといったリスクが高まることをあらかじめ想定し、生産拠点の水使用量の削減や再利用の可能性等の検討を継続していきます。

水の使用量については、2022年は算定対象拠点の拡大に伴い、前年と比べて0.9%増加しました。

水源別の取水量

取水 (ML)	2021		2022	
	全地域	水ストレスのある地域	全地域	水ストレスのある地域
第三者				
上水道	680	109	695	82
工業用水	438	0	422	0
地表水	0	0	0	0
地下水	2,056	0	2,086	0
総取水量	3,174	109	3,203	83

高砂香料グループの一部の生産拠点では、生産の目的で許可された量の地下水を取水しています。

排水先別の排水量

排水 (ML)	2021		2022	
	全地域	水ストレスのある地域	全地域	水ストレスのある地域
地表水	2,518		2,495	
地下水	0		0	
第三者(地方自治体の処理施設等)	451		517	
総排水量	2,969	44	3,012	73

河川放流を行っている生産拠点については、放流前に生化学処理を行い基準以下まで浄化した水を放流しています。

処理レベル別の排水量

排水 (ML)	2021		2022	
	全地域	水ストレスのある地域	全地域	水ストレスのある地域
未処理	542		660	
一次処理	29		31	
二次処理	2,348		2,321	
総排水量	2,969		3,012	

水消費

水消費 (ML)	2021		2022	
	全地域	水ストレスのある地域	全地域	水ストレスのある地域
総水消費量	205	10	191	10

廃棄物

高砂香料グループは、グループ全体で分別の推進による有価物化や製品の設計や生産工程を改善するなど、廃棄物の総排出量の削減に努めています。廃棄物として排出する場合は再生利用を優先し埋め立て処分する量を減らすことにも取り組んでいます。また、処理業者を適切に管理し、不法投棄などの不適切な廃棄物処理を防止しています。

廃棄物排出量(処分方法別)

有害廃棄物 (MT)	オンサイト	オフサイト	合計
リサイクル	0	1,887	1,887
焼却	0	195	195
埋立	0	28	28
有害廃棄物の総発生量	0	2,110	2,110

非有害廃棄物 (MT)	オンサイト	オフサイト	合計
リサイクル	2,172	17,991	20,163
脱水	10,914	0	10,914
焼却	0	2,638	2,638
埋立	0	197	197
非有害廃棄物の総発生量	13,086	20,826	33,912

2022年は、グループ全体で発生する廃棄物のうち、0.98%が埋め立て処分されています。

環境コンプライアンス

高砂香料グループでは、コンプライアンスは経営上の最重要課題の一つであると考え、適用項目、適用基準、測定基準、適用要件を明確にしたISO14001環境マネジメントシステム(EMS)のプロセスに基づいて管理するために、EHS、災害対策、法規制、社会的ニーズなどの最新情報を入手するためのプロセスを構築しています。

2022年はグループにおいて重大な法令違反はありませんでした。

労働安全衛生(OHS)

高砂香料グループでは、環境マネジメントシステムであるISO14001の認証取得に加え、労働安全衛生マネジメントシステムであるISO45001の認証取得をグローバルで推進しています。2020年から2022年までの3年で、高砂香料グループの国内の全ての生産拠点と研究開発本部および海外生産拠点のうち11カ所がISO45001の認証を取得しました。

今後も海外生産拠点の認証取得を拡大し、グローバルで統一されたマネジメントシステムによる労働安全衛生への取り組みを推進していきます。

インシデントレポートルールとインシデント調査

高砂香料グループではEHS関連のインシデント(労働災害を含む)に関する報告ルールを策定しています。この報告ルールに従って、国内外の生産拠点で発生するインシデントが適時適切に他の生産拠点に共有されることになっています。

インシデントの原因を調査することは、同種または類似のインシデントを防ぐという点からも非常に重要と考えています。そのため、安全管理部は各生産拠点からインシデントに関する報告を受けた後、インシデントの概要、根本原因、是正対策を確認し、フィードバックするとともに、国内外で開催される各種会議において協議をしています。各サイトではこれらの報告およびフィードバック、さらには各種会議における協議結果に基づき、自サイトで同種または類似のインシデントが発生しないように対策を講じています。

危険源の特定、労働安全衛生リスクアセスメント

高砂香料グループでは、労働安全衛生リスクアセスメント(以下、「OHS RA」)ルールを所在国での法令上の不一致がない限り国内の生産拠点と研究開発本部および海外生産拠点に適用しています。各拠点では、このルールに基づき、職場における事故・労働災害の原因となる危険源を特定し、予見可能なリスクへの予防措置を行っています。安全管理部は、OHS RAをグローバルで強化するために、労働安全衛生規則の補足手順の構築に取り組んでいます。

コミュニケーションと現場確認

高砂香料グループでは、国内においては国内EHS会議を年に2回以上開催し、また、海外においてはグローバルEHS会議を年に4回以上開催し、EHSに関する情報の共有化を図っています。

また、安全管理部では、高砂香料グループの国内の生産拠点、研究開発本部および配送センターに対し定期的に安全監査を実施し、各拠点の安全衛生活動・事故労災等の確認を行っています。さらに、国内の生産拠点、研究開発本部および配送センターの安全管理を担当する責任者と本社役員および関係者が参加し、月次の安全協議会を開催し、EHS関連法改正や各拠点での安全監査で確認された課題等の情報共有や労働安全衛生対策についての話し合いを行っています。

また、毎年、海外の複数の生産拠点に対しEHS監査を実施しています。2019年、安全管理部は、米国、インド、シンガポールの現場でEHS監査を実施しました。2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により現地訪問ができないメキシコの生産拠点に対してリモートEHS監査を実施しました。2022年度は3年ぶりに海外生産拠点を訪問してのEHS監査を実施しました。2020年にリモートで実施したメキシコの生産拠点を訪問し、直接確認できなかった箇所を現場で確認しました。さらに、米国にも訪問し2つの生産拠点と研究開発部門の監査も実施しました。

労働安全衛生に関する社員教育

安全衛生関連法令に関連する各種作業主任者など技能講習や特別教育、職長教育など外部機関で受講する教育、雇入れ時教育や配置転換者教育など社内教育を実施しています。その他、トップマネジメント層、新入社員を対象とした階層別教育、内部監査員やリスクアセスメントを推進する人材の育成、レベルアップを目的とした集合教育を実施しています。

労働災害・疾病データ集計

T-ReCS®を使用して労働災害や疾病に関する情報を含むOHSデータの集計を実施しています。さらに、データをグローバルに集計するためのより効率的なシステムを今後構築する予定です。2022年には、国内で12件、海外生産拠点全体で16件の労働災害が発生しました。労働災害度数率は3.36、強度率は0.33です。労働災害の主な種類は、有害物質等との接触でした。なお、同期間中に重大な労災は発生していません。

コラム

高砂USAフレーバー工場(テタボロ)無事故500日達成

2023年5月7日で高砂USAフレーバー工場(ニュージャージー州テタボロ)は休業災害ゼロ500日を達成したことから、後日アイスクリームのトラックを職場に呼び、従業員全員でお祝いを行いました。今後も更なる安全文化の醸成に取り組み、休業災害ゼロを継続し、従業員と同様の節目を積み重ね、ともに祝うことを楽しみにしています。



高砂安全の日

2023年4月10日、“2013年に発生した火災事故を二度と起こさない”と誓い制定した「安全の日」は10回目を迎えました。

2019年の年末から世界的に感染が拡大し始めた新型コロナウイルス感染症「COVID-19」の感染症法上の位置付けが5類へと移行することに伴い、今回の安全の日は、安全統括本部長が平塚工場を訪れ、工場従業員全員を前に訓示することにしました。また、当日、安全統括本部長の訓示は国内の全事業所に同時中継されました。

10回目となる今年は「過去のインシデントを振り返り、一歩前へ」をテーマに掲げ、火災事故が発生した2013年からこの10年間で安全への取り組みをどのように実施してきたか、またどのような事故・労働災害が発生したのかを振り返り、今後事故・労働災害ゼロを達成するために、どのように取り組んでいくかを考えながら教育・訓練を実施しました。

「COVID-19」の対策として集合形式でのコアタイムプログラム実施を控えた拠点もあったことから、コアタイムプログラムとして、「社長訓示」の同時中継または配信ビデオ視聴、「安全統括本部副本部長説示」および「コアタイム」のビデオ視聴を行い、その後「過去のインシデントの振り返り」を意識し、それぞれに工夫を凝らした教育・訓練を実施しました。

例えば、過去に発生したインシデントをデータベース化し、事故の型の分類や傾向をもとに教育を実施する(高砂珈琲)、過去に発生した事故に対する対応方法の有効性を確認するために、グループに分かれて複数のシミュレーションについて討議を行う(西日本工場)など、非常に有意義な訓練となりました。

2013年以降、幸いにも高砂香料グループでは重大な事故・労働災害は発生していません。しかし、この10年で当時の状況を知らない従業員が2割を超えている現在、従業員一人一人が「安全はすべてに優先する」の思いを強く持ち、「二度とあのような事故は起こさない」ために、日々安全への取り組みを実施していく上で、この「安全の日」の行事の意義はますます大きくなっています。

社会性報告

- 38 従業員との関わり
- 43 サプライチェーン
TaSuKI update
- 51 生産
- 52 物流
- 53 研究開発
イノベーション
グリーンケミストリー
- 56 品質保証
- 59 投資家の皆様との関わり
- 60 地域・社会とともに



従業員との関わり



取締役常務執行役員 人事・総務本部長
磯野 裕一

高砂香料グループは、従業員ひとりひとりがやりがいや幸福感を感じるような会社を高いレベルで目指します。

具体的には、様々な人が楽しくやりがいを持って働ける環境の整備、個々の成長を支援する体制づくり、そして何より従業員の健康的で健全なワーク・ライフ・バランスを実現するための経営を行ってまいります。

高砂香料グループのマネジメントはこれからも従業員満足度の高い会社を目指し、持続的な企業活動を実現して社会に貢献してまいります。

基本的な考え方

【高砂香料グループ企業憲章及び行動規範】

高砂香料グループは、技術立脚の精神に則り、社会に貢献するグローバル企業として、持続可能な社会の実現をめざし、人権を尊重し関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守するとともに、高い倫理観をもって行動するために以下の原則を定めます。

私たちは、従業員の能力を高め、多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現します。また、ひとりひとりの従業員を大切に、健康と安全に配慮した働きやすい職場環境を整備します。

- ・多様な人材が個々の能力を十分に発揮できる人事処遇制度を構築します。
- ・雇用における国籍、性別、信条または社会的身分等による差別を行わず、機会の均等を図ります。
- ・働き方の見直しを図り、ワーク・ライフ・バランスを推進します。
- ・従業員の個性を尊重し、従業員のキャリア形成や能力開発を支援します。
- ・従業員の安全と健康保持の増進を実現するため、職場環境の整備、維持を行います。

※ 高砂香料グループ企業憲章及び行動規範から抜粋。

人材育成

個人の多様な要望や価値観の充足を実現するため、高砂香料グループでは積極的に人材育成に取り組み、働きがいのある職場づくりを推進しています。

グローバルでの取り組み(Global HRチーム)

Global HRチームは、コーポレート本部長をチェアマンに、主要拠点の人事部長で構成されたチームで、グループで共通の人事関係におけるポリシー策定、仕組みの整備、情報共有等を行っています。例えば、各拠点での業務に加えグローバルでの役割を担う従業員に対し、グローバルでの人事評価システムを構築。各拠点での評価だけでなく、機能領域のリーダーからの評価も加味することができ、グローバルの役割にも適切な評価ができる仕組みとなっています。今後も定期的な会議を開催しながら人事関係の環境整備を進めてまいります。

日本での取り組み

階層別研修

新入社員から経営層までの職位に応じた研修を実施、それぞれの階層に必要な教育制度を充実させることで、人的資源を最大限に活用できる人材の育成に取り組んでいます。

新入社員研修

新入社員には、社会人としての基本や心構え、高砂香料の歴史や創香などを学ぶ集合研修の後、半年間の工場実習を行っています。実際に香料が製造される現場を体験することで、自社製品への理解を深めることはもちろん、社会人としての責任やコミュニケーションを学び、配属後の部署においてもスムーズな業務遂行を期待しています。

新入社員マナー研修

工場実習を終え、それぞれの部門に正式配属となるタイミングで、マナー研修を実施しています。

社会人の基本であるビジネスマナーが実践できているかを確認し、業務上のコミュニケーションに必要な電話対応やあいさつ、ビジネス文書の理解など、配属に向けて目指す姿の目標設定を行っています。

新任管理職研修

新たに管理職に任用された従業員を対象に、管理職としての役割を認識し、実践的なマネジメントの在り方を学び、理解を深めることを目的にしています。

上級管理職研修

人と組織の「らしさ」を大切に「共創型マネージャー」育成を目標としています。マネジメントの原点を確認し、会社の掲げる方針・目標に対し、部門責任者として期待される役割を再認識し、自分の持ち味を生かした、自分らしいマネジメントの基軸をつくる機会としています。

高砂カレッジ

高砂香料グループを支えていく人材の育成を目的に2009年に開講しました。若手従業員を対象にした基礎コースに加え、2012年からは専門コースも実施しています。

基礎コース

「高砂再発見。」をテーマに、若手従業員を対象に実施。お互いの業務を理解し深め合うことを目的に、参加者自らが講師を務めプレゼンテーションを経験することで、業務遂行能力や発信力を強化しています。

専門コース

従業員の知識や技術をさらに高めるプログラムを実施しています。新しい挑戦や提案に対して柔軟に対応できるよう、コミュニケーション力の向上や発想力、論理的思考力などを学びます。単なるスキルの修得ではなく、社内でもどう生かすかの視点を重視、「高砂らしさ」を発揮することを目標としています。

オンライン研修(eラーニング)

従業員をはじめ、当社業務に携わる全ての方を対象に、以下のオンライン研修を実施しています。

情報を守るための知識を得ることで、一人ひとりのセキュリティ意識が向上し、人為的ミスによる情報漏えいを防いでいます。

- ・情報セキュリティ研修
- ・個人情報保護講座
- ・インサイダー取引規制講座
- ・コンプライアンス研修

通信教育講座

従業員自らの積極的な自己啓発、能力開発への支援を目的として、英語を中心とした語学をはじめ、マネジメントやビジネススキル、資格取得や個人のライフスタイルに関わる内容など、それぞれの興味や必要に応じた通信教育講座を設けています。また、講座修了時には受講料の70~100%を補助することでも受講を支援しており、2022年度は172名の従業員が受講しました。

(2023年3月末の従業員1037名のうち172名=16.6%の受講率)

自己申告制度

従業員が自分自身の仕事や家庭の状況を会社に伝える自己申告制度を設けています。この制度は、日頃の仕事に対する考え方や新たに挑戦してみたい業務、現況の問題点など、上司を介さずに直接人事総務部長宛てに申告をする仕組みです。申告は任意ですが、約90%の従業員が提出しています。今後の人事施策の参考にするとともに、本人の適性や希望を考慮し、適材適所の人員配置を推進しています。

ダイバーシティ・インクルージョン

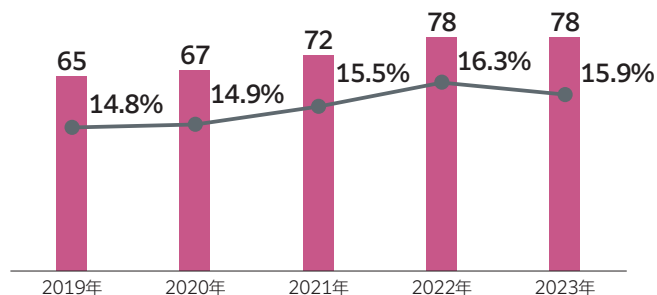
全ての従業員に各自の能力や経験を生かす機会が公平に与えられ、皆がいきいきと働くこと
によってグループの長期的な発展を目指します。多様性を尊重し誰もが自分らしさを発揮する
ことで、新しい価値の創造につながると認識し多様性の推進を図ります。

2022年11月には、グループで共通のダイバーシティ・インクルージョンポリシー（英：
Diversity, Equity and Inclusion Policy）を策定し、社内への浸透を促しています。また、
各国により事情も異なるため拠点別での3カ年推進計画を作成し採用時の取り組みや研修実施
などといった具体的な施策を進めています。

2023年度は、LGBTを含むダイバーシティ・インクルージョンについて、従業員向けeラー
ニングを実施しました。

ダイバーシティ・インクルージョンポリシー全文はこちらから

女性管理職人数と比率(対管理職全員) (各年4月時点)
■女性管理職人数(人) — 女性管理職比率(%)



女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画

計画期間：2020年4月1日～2025年3月31日(5年間)

数値目標：管理職に占める女性割合を2025年3月末までに16%以上とする。

取組内容：(職業生活に関する機会の提供に関する目標)

- ・管理職を対象にしているダイバーシティマネジメント研修の内容を見直し、研修を実施する。
- ・主任級を対象にした研修において、管理職に向けての意識改革を目的としたキャリア支援研修の内容を見直し実施する。

グローバル人材採用への取り組み

グローバルに活躍できる人材育成の一環として、外国人の採用にも積極的に取り組んでい
ます。

海外の大学に在籍、卒業後は日本での就職を希望する学生や、中途採用として日本での就
職を希望する外国人に対して、会社説明会や採用面接会を通じて積極的に採用活動を行いま
した。2022年度には2名の外国人が入社、現在では6の国籍の方が高砂香料で働いています。

外国人の採用に際しては、多様な発想や知識などそれぞれの強みを生かし、新しい価値を
生み出すことに期待しています。

定年再雇用制度

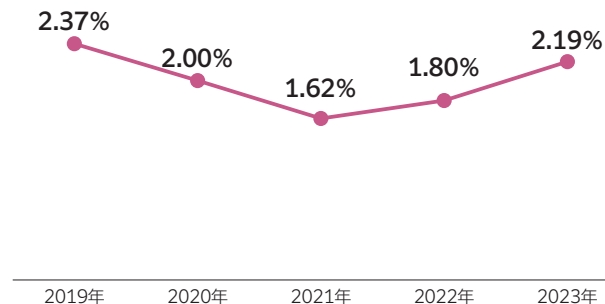
定年を迎えた60歳以上の従業員には、今まで培ってきた経験や能力を発揮できる再雇用制
度を設けています。過去3年(2020年9月～2023年3月)の再雇用希望率は90%、希望者に
つきましては100%再雇用を行っています。また、定年前の従業員を対象に「ライフプランセミ
ナー」を開催、定年後の生活設計について支援を行っています。

さらに退職後には、OB・OG会である「高友会」に加入が可能、懇親会の際には社長からの
メッセージや役員の参加もあり、高砂ファミリーとして定期的な懇親の場が設けられています。

障がい者雇用の促進

障がいのある方の採用活動を積極的に行うとともに、能力や適性を最大限に発揮し活躍でき
る環境と、定着を図る雇用制度を進めています。引き続き、障がいのある従業員にとって働き
やすい職場の充実を通じて社会的責任を遂行していきます。

障がい者雇用率 (各年6月時点)



ワーク・ライフ・バランス

仕事と生活の調和を保ちながら充実して働けるように、高砂香料グループではワーク・ライフ・バランスの実現に取り組んでいます。

育児支援

育児休業や育児時間、看護休暇の制度を整え、安心して従業員が仕事と育児を両立しながら働ける環境づくりを推進しています。

育児休業制度	子どもが満1歳6カ月になるまでの期間、育児休業が取得できます。
出生時育児休業(産後/パパ育児)	子どもの出生後、8週間以内に4週間を限度として2回に分けて取得可能、かつ、育児休業制度とは別に取得できます。
育児短時間勤務	子どもが3歳に達するまで、1日6時間の就業にすることが可能です。
育児時間	子どもが小学校3年生終了時まで、1日1時間を上限とし、30分単位で取得が可能です。
看護休暇	小学校入学前の子どもの看護を必要とする場合、1名につき年6日、かつ時間単位での休暇が取得できます。

育児休業の取得状況

	2022年度育児休業取得者(名)	育児休業取得権利保持者 [※] (名)	割合(%)
男性	10	22	45%
女性	13	13	100%
合計	23	35	65%

※ 男性：年度内に子どもが生まれた者
女性：年度内に産前産後休業が終了し、育児休業を取得できる者

介護支援

家族に対する介護が必要になっても退職することなく、長期にわたって働き続けられるように介護休暇および介護休業制度を設けています。

介護休暇	要介護状態にある家族の介護やその他の世話をする従業員は、対象の家族1名につき年間5日、2名以上を介護する場合は、年間10日を限度として休暇が取得できます。かつ時間単位の取得が可能です。
介護休業	半日単位で年40回までの取得が可能、さらに1カ月単位の取得と合わせて最長12カ月の休業が可能です。

福利厚生

従業員のより一層の生活向上のため、福利厚生の充実を図っています。従業員持株会や財形貯蓄制度、社有保養所等各種施設の利用も可能です。また、パッケージサービスでは、従業員やその家族の生活を豊かに支援するためのメニューを選択・利用することができます。

有給休暇制度

年次有給休暇については、従来からの1日単位、半日単位の取得に加え、1時間単位での時間単位有給休暇(年間最大5日分相当)の取得が可能です。時間単位有給休暇では、育児や介護、短時間での私用対応など、休暇を取得しやすい環境の実現に取り組んでいます。

・2022年度有給休暇平均取得日数：16.4日

リフレッシュ休暇制度

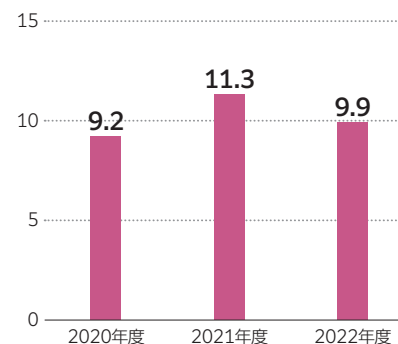
従業員が心身ともにリフレッシュをし、幅広い視野と柔軟な思考を育む機会が得られるよう、勤続10年以降、5年ごとに5日間のリフレッシュ休暇を取得できる制度を設けています。また、勤続15周年、25周年を迎えた社員には感謝の意を込めて、勤続表彰金が支給されます。

時差勤務制度

出勤時間を早める、もしくは遅くすることが可能な時差勤務制度を設けました(工場を除く)。

出退勤の時間を調整することで、時間の使い方の幅が広がるとともに、従業員ひとりひとりが時間の意識をしっかりと持つことで、残業の削減にもつながっています。

時間外労働平均時間数(月)(時間)



在宅勤務制度

柔軟な働き方の一環として、在宅勤務を制度化しました(研究所、工場除く)。デジタルツールの活用やオンラインでの会議など、リモートワークでも効率よく業務に取り組める環境を整えています。

健康維持・増進

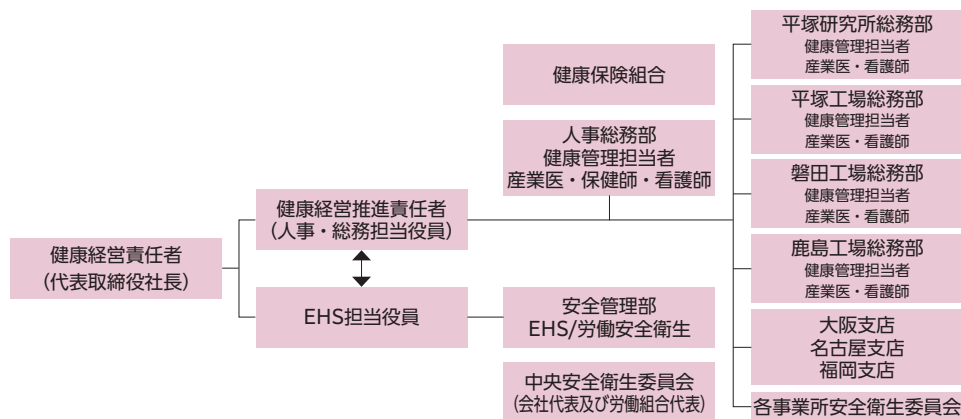
従業員の心身の健康管理・増進のため、様々な活動を行っています。

健康宣言

高砂香料工業は「香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続ける」を企業理念に掲げております。この企業理念を実現するためには、社員が心身ともに健康で幸せであることが必要不可欠です。私たちは、社員一人ひとりを大切に、いきいきと働くことができる職場環境づくりに努め、香りを通して人々の心豊かな暮らしと健康を支えることを宣言いたします。

高砂香料工業株式会社 代表取締役社長 榎村聡

健康宣言推進組織



健康管理の促進(定期健康診断等について)

社員が自ら健康管理を行い、健康意識を高く維持できるよう、35歳以上の社員全員の人間ドックを隔年で会社負担受診できるようにするなど、積極的な受診を推奨しています。さらに、人間ドック以外にも、法定項目に加え、腎機能検査、便潜血も追加項目にしており、また、胃がん検診、婦人科検診のオプションの追加も可能としています。その他、インフルエンザワクチン接種についても費用の一部を助成しています。

2022年度の実績

定期健康診断受診率：100%(受診率を算出する対象者から産休・育休など、休業中の従業員を除いています。なお、産休・育休中の従業員でも本人が希望すれば受診は可能です)

ストレスチェック受検率：92.5%

労働時間の適正化

過重労働による健康障害防止措置として、月間の法定外労働時間(本社の場合は25時間および45時間)を超えた場合、対象者全員に産業医が面談や助言を行い、社員の健康維持および職場の労働環境改善につなげています。(当社の平均残業時間は9.9時間/月です)

メンタルヘルスケアの取り組み(ストレスチェック)

全従業員を対象とした法定ストレスチェック制度は2015年の開始から9年目を迎え、そのチェック結果は積極的にメンタルヘルスケアに活用されています。回答結果から高ストレスと判断される従業員には、産業医や保健師・看護師等、産健スタッフが速やかにフォローを実施しています。組織に対しては、ストレスチェックの集団分析を踏まえた報告会を事業所単位で実施し、次年度への改善等につなげる運用をしています。

研修の実施

全従業員を対象とした「セルフケア研修」では、自身の考え方の傾向を知るとともに、生産性向上やメンタルヘルスに効果を発揮している事例を学びます。また、管理職を対象にした「ラインケア研修」「ハラスメント防止研修」では、メンタル不調やハラスメントを未然に防止する方法や、部下から相談を受けた場合の適切な対応について学んでいます。

部活動・高砂杯の開催

社内にはさまざまな部活動があり、多くの従業員が参加をしています。毎年開催されるスポーツ大会「高砂杯」では、バレーボールやバスケットボール、野球やテニスを通じて、従業員同士が交流を深める機会にもなっています。

労働関係

高砂香料グループは結社の自由および団体交渉の権利を尊重しており、ユニオンショップ制で組織されている高砂香料工業労働組合と企業活動全般に関する課題解決に向けた話し合いを積極的に行っています。経営陣と従業員が経営に関する情報を共有、議論する労使協議会(年2回)や、労働安全について議論をする中央安全衛生委員会(年1回)、福利厚生について話し合う中央福利厚生委員会(年1回)など、労使が協力して様々な課題を検討する場を設け、適切な事業運営につなげています。また労使の話し合いによる制度や処遇の改善などを行い、従業員が働きやすい職場づくりに努めています。

管理職含む総従業員のうち、労働組合の組合員(労使間の労働協約が適用される従業員)の比率は54.9%です。なお、各事業所では労務共同の安全衛生委員会を開催しており、その対象範囲は全ての従業員(100%)になります。【2022年度末基準】

サプライチェーン



取締役常務執行役員 調達本部長 兼
サプライチェーン本部長
水野 直樹

今日のSCM 5.0時代が求めるマネジメントには、そのリスク環境下においてはレジリエンス(強靱性)の獲得、そしてESG経営の観点からのサステナビリティの実現が不可欠です。そのためにはサプライチェーンネットワークの可視化、再評価、再デザインを通じて、迅速かつ変幻自在に対処可能な体制の再構築を行うなど、新たな能力や基盤を備える必要があります。営業、研究、調達、購買、生産、物流のエンジニアリングチェーンおよびサプライチェーンにおけるグローバル社内ネットワーク体制を強化するとともに、お客様やお取引先様との新たな関係性の構築や互恵的連携を強化することで、高砂香料ならではの新時代にふさわしい、ダイナミックでサステナブルなサプライチェーンマネジメントを実行します。

基本的な考え方

高砂香料グループは、事業活動において持続可能性を最重要と考えています。各事業で用いる原材料は、お客様および社会の期待とニーズに応えるとともに、持続可能な方法によって調達されることが必要不可欠です。高砂香料グループは、世界中の1,000社以上のサプライヤーから調達した約12,000種類の原材料を製品製造に使用しています。これらの原材料のうち約4,000種類は、果実、野菜、樹木、根、葉、花などの天然素材に由来する天然原料です。その他の約8,000種類は高度な化学技術により得られる合成香料であり、天然ガスやナフサから得られるものや、松のような天然素材から得られるものもあります。合成香料は自然には存在しないユニークな香りプロファイルを提供するだけでなく、ムスクやアンバーグリスのような貴重な動物由来の香料への代替品にもなり得ます。これらの高品質な原材料を適切な価格で世界各地の拠点にタイムリーに供給するために、グローバル調達チームは世界的なネットワークを通じてコミュニケーションを図り、調達活動を強化しています。

2017年6月、高砂香料グループは国連グローバル・コンパクト(UNGC)に署名し、人権、労働、環境、腐敗防止の分野で国連グローバル・コンパクトの10原則に沿った取り組みを継続しています。また、各国の法令遵守、人権の尊重、環境保全、公正な事業慣行、地域社会への関与と発展にも重点を置きながら、持続可能な調達の実現に可能な限り努めています。

世界中のお取引先様と公正で信頼できる関係を築き、責任ある調達を実現するために「コーポレート調達ポリシー」「コーポレート調達ガイドライン」「高砂香料グループ サプライヤー行動規範」「高砂香料 責任ある調達ポリシー」を定めています。

▶ 調達ポリシー

高砂香料グループは、持続可能な経済成長と社会問題の解決のために、原材料の調達だけでなく、事業に必要なあらゆる物やサービスの調達において、「責任ある調達」を実現してまいります。その責任ある調達の基準を「コーポレート調達ポリシー」に記しております。

<https://www.takasago.com/ja/sustainability/visitor/procurement.html>に全文が記載されております。

▶ 調達ガイドライン

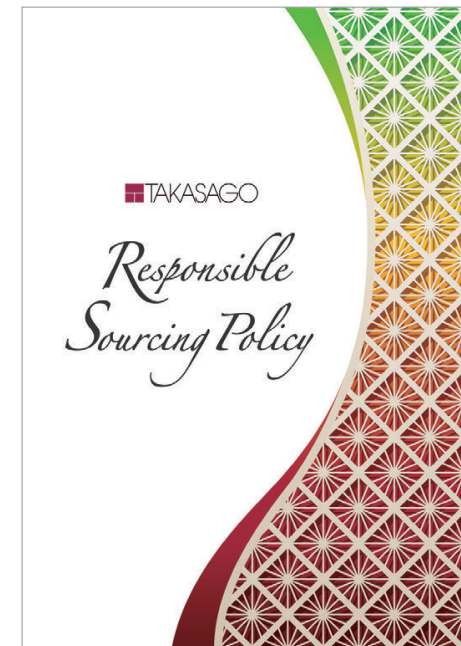
「コーポレート調達ガイドライン」は、「コーポレート調達ポリシー」を実際の行動に当てはめたものです。当ガイドラインには、責任ある調達の概念に合わせて、コンプライアンス、公正取引、腐敗防止、人権、環境保護などの基本的な主題が含まれています。私たちは、持続可能性の重要性の高まりなど、変化する世界的な動向に合わせてガイドラインを定期的に見直し、更新しています。

「コーポレート調達ガイドライン」の実施を確実にするために、国際調達トレーニングには、当ガイドラインおよび高砂香料グループの基本的なポリシーに関するセッションが含まれています。

▶ サプライヤー行動規範／責任ある調達ポリシー

高砂香料グループは社会から高いレベルの信頼を維持できるよう、環境的社会的責任を重視するお取引先様を尊重し、優先しております。「コーポレート調達ポリシー」に基づいた「責任ある調達」の実現への取り組みと価値観をお取引先様にも共有したく、事業に必要な全ての原材料、容器包材、サービスを対象とした「高砂香料グループサプライヤー行動規範(2021年改訂)」にご理解をいただいております。また、このコンセプトは主に原材料を対象とした責任ある調達に対する私たちのビジョン、目的、コミットメントを記した「高砂香料 責任ある調達ポリシー」にも反映されております。「高砂香料 責任ある調達ポリシー」は、ECOCERT expert consultingにより、ISO26000およびSMETA*(Sedexメンバーの倫理的監査)の原則といった、グローバルスタンダードに準拠していることが確認および承認されています。この方針や考え方をお取引先様にもご理解いただくため、2021年より本ポリシーをお取引先様と共有し、責任ある調達活動を促進しております。

※ SMETA：社会・環境に関するベストプラクティスを集約し作られたSedexによる社会監査基準



調達活動推進体制

当社では、先ず「企業理念」ならびにVision 2040に即して「コーポレート調達ポリシー」を定め、調達活動に関する基本的な考え方や方針を明確にしています。その上で、日々の業務がこの「コーポレート調達ポリシー」に沿って適切に遂行されるように「コーポレート調達ガイドライン」を整備しています。さらに、調達活動を人権、労働、安全衛生や環境にも配慮して持続可能に推進すべく、ISO26000やSMETAに準拠し、またSDGsへの貢献も意識して、「高砂香料責任ある調達ポリシー」を制定しました。これらのポリシー類は、サステナビリティ推進会議、事業部門、その他関連部門、および海外関連会社とのコミュニケーションにより、周知徹底されています。

「チームワーク(和)」は、テクノロジー(技術)やトラスト(信頼)と並んで、当社が大切にしている価値観の一つです。特に、多種多様な原材料を調達するに当たって「チームワーク(和)」は重要です。当社ではグローバルに展開する12の生産拠点の調達担当者を構成員とするグローバル調達チームを組織して、「コーポレート調達ポリシー」にうたう考え方を共有しつつ、調達活動の最適化を目指し協力しています。本社での年次会議、各種定例会、地域単位の連携、原料カテゴリー別の課題に対する取り組みなどを進めています。

高砂香料グローバル調達組織



これからの調達の役割

私たち高砂香料グループのグローバル調達組織は、世界各地の生産拠点を効率的に運営するために、安心・安全・適正な価格を確保しつつ、良質な原材料をタイムリーに供給することを使命としています。この使命を達成するためには、原材料の調達に限らず、その他のサービスについても、公正で信頼できるビジネスパートナーシップを構築し、長期的に維持することが重要です。地球環境の尊重などの価値観を、購入品のサプライチェーンの上流にいる全てのステークホルダーを含むパートナーと共有、評価して、信頼される企業であるべきだと考えています。

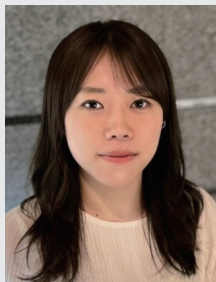
昨今、資源の枯渇や地球温暖化などの環境問題から、労働災害や人権問題などの社会問題まで、私たちが抱える地球規模の課題は増加し、深刻化しています。私たちは、「責任ある調達」を推進し、透明性の高い取引によるパートナーとの強固な相互関係の下、持続可能な調達が行われるよう、レジリエントな原材料調達を追求していきます。

未来の明るい社会に向けて、全てのステークホルダーと「共存、共栄、共生」を目指し、「共感、共鳴、共働」を実現することで、新たな価値を創造するサプライチェーンモデルを構築していきます。

国際調達トレーニング

2022年も新型コロナウイルス感染症は社会に影響を与え続けており、私たちはオンライントレーニングプログラム「Procurement Academy」を通じて、調達スタッフへの研修を継続しています。2020年から、入社する新入社員だけでなく、中堅からベテランまでを対象にした「Procurement Academy」を年2回開催しました。プログラムでは、ポリシー、ガイドライン、ITリテラシー、持続可能性、原材料やパッケージの知識、調達手法など、基本的なものから応用的なものまでが網羅されています。その目的は、調達に関する貴重な知識を共有し、グループ間のネットワーキングやチームビルディングを図るとともに、グローバル調達スタッフの能力を高めることにあります。

ボイス



伊藤 文恵
高砂香料工業株式会社(日本)

新型コロナウイルス感染症の影響で様々な制約がある中、このような研修に参加できたことを大変嬉しく思っています。Procurement Academyを通じて、サプライヤーの評価プロセスやサステナビリティへの取り組み、再生可能な原材料など、普段の担当業務にとどまらない高砂の調達における様々な取り組みについて学ぶことができました。グローバルな研修によって、より幅広い知識を身に付けることができたと感じています。調達チームの一員として、日々学び続け、より広い視野で学んだことを業務に活かしていきたいと思っています。



Stanley Chong
Takasago International (Singapore) Pte. Ltd
(シンガポール)

昨今の予測不能なグローバル市場において、原料購買者は供給の途絶による困難に直面し、コスト面でも大きな影響を受けることが予想されます。世界のトレンドは日々進化しており、米中の政治問題、パンデミック、物流コストの高騰、物価上昇、サプライヤーの拠点での災害、AI技術の利用拡大といった要因により、市場が変化しています。このような市場において競争力を維持し、適切な存在であり続けるためには、私たちは新しいスキルを学び続け、市場の変化に迅速に適応していかなければなりません。当社のProcurement Academyでは、チームに新しいスキルを身に付けさせ、アイデアを生み出し、変化に応じて組織を改善するための力を付けることができます。

第三者機関との協働

高砂香料グループは、持続可能調達を推進する外部イニシアチブに加盟しています。

2016年初めに、労働環境、安全衛生、環境管理、倫理的なビジネス慣行の分野でサプライヤーの評価を促進するSupplier Ethical Data Exchange (Sedex)※1(AB会員)に加入しました。サプライチェーンのデータをグローバルに共有するための世界最大の共同プラットフォームと個別のサプライヤー・アンケートを利用することで、倫理的なサプライチェーンを確保しています。高砂香料は、お取引先様が「高砂香料 責任ある調達ポリシー」を遵守しているかどうかをモニタリングするため、Sedexの会員になるか、弊社自己評価アンケートに回答するようお願いしています。その結果、2023年度までに約260社のSedex会員サプライヤーが高砂香料グループとのSedex上のリンクを構築しました。

喫緊の課題として、高砂香料グループでは、サプライチェーン上の潜在的または実際に発生している人権への悪影響を管理し、人権デューデリジェンスを実施するため、今年度、第三者機関とのプロジェクトを開始しました。

2017年には、国連グローバル・コンパクト(UNGC)に署名しました。その後、ESGのトレンドを学び、日本における持続可能なサプライチェーンの推進に貢献するため、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)※2に参加しました。GCNJサプライチェーン分科会に参加する各社CSR調達担当者とディスカッションすることで、人権デューデリジェンス等への理解が深まりました。

また、高砂香料グループは、持続可能なパーム油サプライチェーンを推進するため、持続可能なパーム油に関する円卓会議(RSPO)※3および持続可能なパーム油ネットワーク(JaSPON)※4に加盟しています。当社では下表のとおりRSPO認証を取得し、お客様のニーズに応じたRSPO認証製品を供給しています。また、RSPOが定めるShared Responsibilityに対応し、認証パーム製品の消費拡大を図っていきたくと考えています。

拠点	事業分野	認証取得年
Takasago International Corp. (U.S.A.)	フレグランス	2021
Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L.	フレグランス	2019
Takasago International (Singapore) Pte. Ltd.	フレグランス	2022
	フレーバー	2022
Takasago International (Shanghai) Co., Ltd.	フレグランス	2022

※1 倫理的かつ責任ある企業活動に関する情報を共有するためのオンラインプラットフォーム。

※2 UNGC10原則およびSDGsの達成に向けた日本の会員企業・団体の自主的な戦略行動を支援する組織。

※3 パーム油産業界を環境への影響が少ない持続可能な産業界に変えようとしているイニシアチブ。

※4 日本におけるパーム油の持続可能な調達と消費のためのプラットフォーム。

TaSuKI Update

1. 概要

Takasago Global Procurement Sustainability Key Initiatives (TaSuKI)の取り組みを立ち上げてから4年が経過し、今年のサステナビリティ報告書はこれまでに達成された全体目標と戦略的取り組みを振り返り、ご理解いただくのに良い機会であると思います。

サプライチェーンの川上統合に向けて



- **TaSuKIとは：** CSRに関するステークホルダーからの期待に対応しながら、戦略的主要原材料の調達管理を十分な内容へと導くための専門的な取り組みと言えます。
- **TaSuKIの戦略とは：** 高砂香料グループが必要とする最も戦略的な原材料を確保するために、原材料の原産地における持続可能な調達戦略と原産地を支援するサポートを計画し、実行に移して、発展させていくことに取り組んでいます。
- **TaSuKIの活動範囲とは：** 象徴的な香料原材料について、原産地の周辺を拠点として、現地での活動にも直接関与して原材料の調達活動をを進めることを目指しています。

昨今の新型コロナウイルス感染症によるサプライチェーンの混乱、地政学的な危機などの前例のない状況にもかかわらず、私たちはこれらの困難をうまく切り抜けて、グレープフルーツ、テレピン油、ラバンジン、バニラ、パチョリなどに関する戦略的なTaSuKIの取り組みを推進してきました。



高砂香料の創業者が100年前に、香料について学ぶために京都から香料の聖地であるフランスのグラスへと旅立ったことになぞらえて、“Kyoto to Grasse”として香料原材料の各産地を結び、各地でのTaSuKIの取り組みを展開しています。

2. 進行中のプロジェクト

フランスのラバンジングロソ

向こう10年間の前進的な「農家からフレグランス製品へ」のラバンジングロソオイルに関する契約 – “TaSuKI Originals, Care and Comply”



2022/2023年産の収穫については、残念ながら、前年に予想していたような事柄が起こってしまい、記録的なインフレと地政学的緊張状況のため、世界的な景気減速に見舞われました。

これにより香水や一般消費財など幅広い用途で用いられるラバンジングロソの需要は直接的な影響を受けて減衰しました。そのような状況に応じるように、ラバンジングロソの在庫は農家から協同組合、商社、香料メーカーに至るサプライチェーン全体にわたって積み上がることでなりました。

2022年夏の収穫は干ばつのために平均的なものでしたが、需要と供給のバランスに十分な影響を与えるような内容ではありませんでした。その結果、市場価格は2年連続でさらに暴落し、製造コストや農家が期待する生活収入をはるかに下回る記録的な最低水準に達しました。高砂香料グループはこのような悲惨な状況に加担するようなことはせず、持続可能性について生産者と語り合い、フランス農協団体(SCA3P)と2020年に締結した10年間の長期的な合意に基づいた公平な固定価格による購買取引の遵守を厳格に実行しました。

この合意事項を遵守することは、SCA3Pと関連する206の農家組合員が最も必要としている時期で、高砂香料グループが財政的な支援を実現していることとなりました。また、適正価格による長期間の購買取引の合意は、農家のラバンジングロソ栽培への関心を維持することにもなります。これにより、将来的な生産量の減少や価格の高騰や投機的な動きを避けることにつながり、原材料価格や供給量の変動により生じるリスクを緩和することができるものと考えます。

フロリダのグレープフルーツ

持続可能なグレープフルーツ：新たな植樹 – “TaSuKI Originals, Care and Comply”

長期にわたるサステナブルグレープフルーツ・プロジェクトは引き続き順調に進行中です。2019年に締結された契約は、フロリダに植えられた新しい農園が生産開始の準備を整えたことで、良いペースで続いています。この取り組みはシトラス産業とのユニークで強い関係構築をもたらしています。



バリューチェーン全体が統合され、同じ方向を向いています。植樹されるグレープフルーツの木は、2023年には目標全体の85%に達する見込みです。現時点で、第一段階で植えられた木が実をつけ、その結果、持続可能な農園から初めてグレープフルーツオイルが生産される予定です。私たちは持続可能なグレープフルーツオイルの供給を見込んでおり、フレーバー、フレグランスの両分野へのユニークな品質の精油開発に着手していきます。

マダガスカルのパニラ

高砂マダガスカルからのニュース- “TaSuKI Originals, Care and Comply”

この3年間、マダガスカルのパニラ市場は、最低輸出価格の実施にもかかわらず大変動を経験してきました。新型コロナウイルス感染症とウクライナ危機によって、当初、買い手は原材料をより多く求めましたが、インフレはその逆を引き起こしました。その結果、買い手はより安価な代替品を求め、需要は減少しました。供給過剰によって数千トンのパニラ豆が売れ残り、マダガスカルの経済に悪影響を与え、サプライチェーンにおける破綻を引き起こしました。

マダガスカルのパニラ農家が直面する困難を前にして、当社は地域社会と密接に協力することでサステナビリティの推進に引き続き尽力しました。

• 2022年における当社とマダガスカルのパニラ豆農家の持続可能な取り組み

持続可能な取り組みとサステナビリティビジョンの達成は、社会、環境、そしてフェアビジネスといった3本の柱に基づいています。2022年にはその取り組みがパニラ調達の地域組織をさらに強化することへとつながりました。

持続可能な取り組みは、パニラ生産者の協同組合と地域社会が地元ニーズに沿って特定したプログラムの開始によって、この1年で顕著になりました。

中長期的な目標を掲げた3つのプログラムが始まりました。

1- パニラ農家の村のインフラ整備

道路を整備し、貴重なパニラを運ぶ人々の安全性を向上させるなど、地方開発を刺激することを目的としています。村人たちからは橋の修復と公共照明の整備が挙げられています。

2- Makadabo地域における絶滅の危機に瀕した森林の再生

この計画は、森林を再生し、自然保護に適した方法を導入するだけでなく、パニラ農家に代替収入源を提供することも目的としています。この活動はパニラの協同組合、地域社会、そして2,000本の林木と3,000本のクローブの選定を指導しMakadabo地域への移植に成功した地域林業事務所を通じて公式な支援を受けています。この活動により、私たちのチームは、森林開発やクローブ生産量の測定など、プロジェクトの成功を中長期的にモニタリングしています。

3- 就学率の向上

パニラ農家の子供たちの就学率向上にフォーカスする取り組みは地域社会の需要の一つです。地方開発と地域社会の生活水準を向上させるため、および、パニラ農園では通常見られないことですが児童労働撲滅のために、このプロジェクトが実施されています。このプロジェクトでは三つの小学校が戦略的に重要であると認識されています。これらの学校は改修され、備品(テーブルとベンチ)が提供されました。この措置は、学校環境の魅力を向上させるために不可欠です。もちろん、これらの活動は、毎年、同じトピックに関する研修や意識向上活動など、当社のチームと地元コミュニティとの間で行われるワークショップによって補完されます。当然ながら、この活動はその効果を確認するため、特に就学率を測定することで中長期的にモニタリングされます。

• 2022年における持続可能な活動の結果と貢献

6つの大きな村のパニラ農家との共同で、2022年に実施された社会的、環境的取り組みはポジティブな結果と地域のインフラの向上を達成し、2,966人の人々に利益をもたらしました。



持続可能な取り組みが進行中のマダガスカルのパニラが生産されている村



村をつなぐ小さな橋は地域社会に不可欠です。これらは頻繁に修復が必要になります。

これら全ての取り組みが地域のバニラ産業の向上を含む当社のサステナブルビジョンと連携しています。当初の長期予測から、それらの取り組みは将来的に16,446人の人々に影響を与えることが予想されています。教育プログラムへの投資は584人の生徒に恩恵をもたらし、森林再生や農家支援などの環境への取り組みは地域社会の生活の質を向上させ、242haの農地にプラスの影響を与えました。

さらに、Ecocert FFL、オーガニック、UEBT/RAの生産者を当社マダガスカルの調達能力に加える活動もこの地域で実現する可能性があります。



バニラ生産者が住む村のインフラ整備は、アクセス性と安全性の向上が目的



生産者の生活の質を向上させるための森林再生と代替農業の機会を目的とした植林の開発



学校の魅力を向上し、教育を促進

今後の展望

マダガスカル バニラ農家は、大量のキャリアオーバーによる景気悪化で収入減に直面し、その活動が危機に瀕しています。今後、彼らのバニラ栽培への関心を維持する努力が重要になりますが、危機的状況は今後2～3年は続く見込みです。2023年には、バニラ生産者と緊密に協力し、サステナブルビジョンを推進し、森林再生のさらなる拡大、ヘルスケアの改善、インフラの充実、バニラ農業のベストプラクティスの普及を図る計画です。

持続可能なパインケミカル

グリーンケミストリーを支える原料調達の強化 - “TaSuKI Originals, Comply and Share”

2020年3月、当社はLAWTER B.V.の一部株式取得と、LAWTER社の親会社であるハリマ化成グループ株式会社との合弁契約に至っております。この合意により、高砂香料グループのコアテクノロジーである「グリーンケミストリー」を用いた β -メントールの製造を目的とした当社グループでの調達が強化されています。松(パイン)を出発とする「パインケミカル」は、樹脂、化成品から電子材料などさまざまな用途に活用されており、アロマケミカルでは、松を由来として得られる粗サルフェートテレピン油やガムテレピン油が重要な原料です。しかし、ガムテレピン油の供給に影響を与えるガムロジンの需要は、ここ十年来、低迷しており、ガムテレピン油の不安定な供給と価格の変動の原因となっています。その一方で、昨今、消費者がサプライチェーン全体でのトレーサビリティや透明性、「責任ある調達」へ多くの注意を払うようになり、川上統合の価値はますます高まっています。

ハリマ化成グループ株式会社では、パルプ・製紙工場から得られる粗サルフェートテレピン油を主な粗原料としているため、ガム相場の変動によるリスクは比較的 low、供給および価格の安定性や、トレーサビリティ情報の開示でもより優位性があります。また、同社では加古川製造所で香料原料(ミルセン)の製造設備を建設し、2023年4月に完工しました。なお、当設備の運転に必要なエネルギーには、主に自家発電による再生可能エネルギーおよびカーボンニュートラルな燃料が使用されており、実質CO₂フリーのプラントを目指して運営されています。

当社は、このようなパートナーシップを通じて、サプライチェーン全体にわたるトレーサビリティの強化やGHG排出量低減への取り組みを推進し、持続可能な調達を目指してまいります。

生産

生産モデルの概要

生産の主な目的は以下の通りです：(1)全生産拠点で同一の品質「高砂品質」の製品を不適合ゼロで製造すること、(2)CSR活動をグローバルに展開し、持続可能な社会づくりに積極的に貢献すること、(3)品質管理部門、EHS部門と連携し高砂のベストプラクティスを確立することです。

コーポレート生産ポリシーに基づく標準化の展開

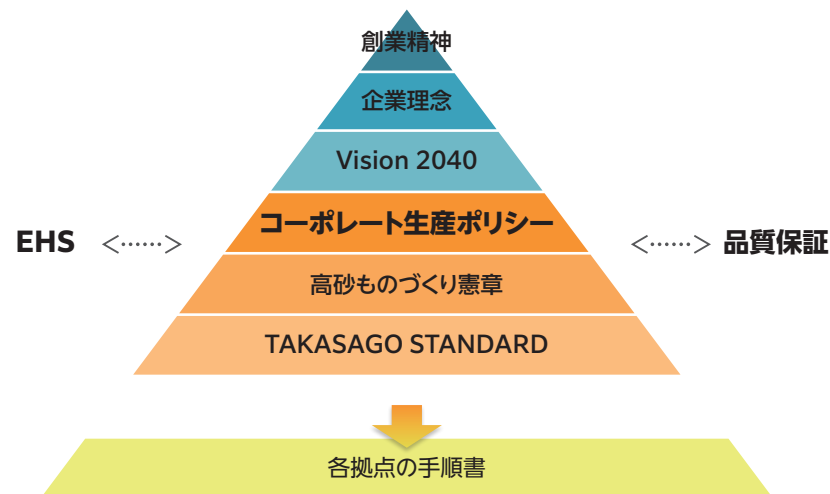
高砂香料グループでは、グローバル機能領域において一貫した目的を持って生産活動やサステナビリティ活動を実施できるよう、「コーポレート生産ポリシー」を策定しています。各拠点の特徴を生かすとともに、グローバルな活動において高砂香料グループとして統一感のある生産活動を推進することで、世界中のお客様に信頼していただける製品供給体制の構築を目指しています。

コーポレート生産ポリシー

私たちは生産活動において以下の事を実践します

- ・安全・安心・安定した生産体制を堅持し、お客様のニーズに応える製品づくりに努め、供給責任を果たします。
- ・製造技術の向上と製造管理の徹底による高効率な生産活動を常に追求します。
- ・法令遵守を徹底し、人権の尊重、環境保全に配慮した生産活動を推進します。

この「コーポレート生産ポリシー」を製造現場に展開するため、実効性のある文書体系の構築を進めています。2022年1月に「高砂ものづくり憲章」を策定し、さらに具体的な「TAKASAGO STANDARD」に落とし込むことにより、現場の作業手順書(SOP)の標準化を推進しています。



国際会議

生産部門を含めた様々な国際会議(Global Operations Directors Meeting, Global Supply Chain Management Committee Meeting, Global Plant Managers Meeting)を定期的開催し、情報の共有や連携の強化、高砂香料グループ全体で実施する取り組みの推進につなげています。



Global Supply Chain Management Committee meeting

環境リスクへの取り組み

当社がグローバルで持続的成長をしていくためには、気候変動や異常気象による生産活動への影響を潜在的なリスクとして把握し対応することが求められます。生産部門として環境負荷低減に向けた取り組みと並行し、水リスクへの取り組みを進めており、全製造拠点でWWF(世界自然保護基金)–DEG(ドイツ投資開発会社)の「Water Risk Filter」による水リスク評価を実施しました。

また、近年日本で発生した洪水等の自然災害対応で得た教訓や、その後の対策事例を国際会議(Global Operations Directors Meeting)で共有し、類似災害の対策強化につなげています。

ゼロ災推進活動の展開

ボトムアップによる労働安全衛生の実践活動として、日本国内の工場ではゼロ災推進活動を展開しています。EHS部門によるトップダウンの活動に加えて、生産部門がボトムアップ活動を推進することで、働く人自らが安全な職場を形成していこうというモチベーションを持った安全衛生活動を推進し、ルールだけではカバーしきれない危険にアプローチし、より安全な生産活動を継続することを目指しています。また、当活動を通じて個々の危険に対する感度を上げることに加え、人権尊重の精神に基づいて働く仲間の安全にも配慮できる心を育み、将来の安全衛生活動を推進するリーダーを育成しています。



左/南海果工 危険予知訓練(KYT)の様子：危険の先取り手法を学び、製造現場で実践する
右/高砂フードプロダクツ 分電盤内のブレーカーの状態を指差し呼称で確認している様子

物流

高砂香料グループでは、物流の指針として、持続可能な社会の実現を掲げる企業憲章の行動規範に則り、「コーポレート物流ポリシー」を定めています。

コーポレート物流ポリシー

- 安全・安心・安定した製品の輸送および保管体制を堅持し、お客様に対する供給責任を果たします。
- 物流システムの改善による効率的な物流を常に追求します。
- 法令遵守を徹底するとともに、人権を尊重し、地球環境にやさしい物流活動を推進します。

輸配送の効率化

事業活動に伴う間接排出(Scope 3)における輸送・配送(上流)について、物流の効率化による環境負荷低減に努めています。複数の生産工場から製品を積み込み、倉庫へまとめ輸送を行うトラックについては、集荷日の調整や積載効率の改善により車両数の削減に取り組んでいます。また、配送先による出荷拠点の見直しなど、長距離輸送の削減にも取り組んでいます。

IT活用による業務改善

紙で運用、保管していた帳票類をITシステム、デジタルツールの活用によりペーパーレス化を進めています。

平塚配送センターでは、新しい倉庫管理システムの稼働とともに、出荷情報を運送会社のシステムと連携する仕組みとすることで、データによる貨物追跡が容易になりました。

持続可能な物流に向けて

物流分野において人手不足など深刻な問題となっており労働時間の規制など法的是正が進められています。持続可能な物流を確保するためには、荷主企業も含めたサプライチェーン全体で生産性向上に取り組むことが必要です。

当社では今後の業務改善に役立てるため、物流会社の関係者を招き勉強会を開催し、情報共有、意見交換を行っています。

＞ 廃棄物処理の法令遵守

産業廃棄物処理に関わる法令遵守を徹底するために、廃棄物の運搬・処理の流れをデータで管理する電子マニフェストシステムを活用してトレーサビリティを確保しています。

また、適正な廃棄物処理を実施すべく、優良事業者として認定された会社との委託契約を優先して行い、定期的に委託先の処理施設を現地訪問して、その処理状況を確認しています。

＞ リサイクルへの配慮

輸出など一部の出荷ではリサイクルパレットを使用しています。不要となった梱包資材は、許可を受けた処分業者により分別収集され、リサイクルされています。

リサイクル・再生可能な原材料とパッケージ

高砂香料グループでは、2022年に使用した原材料のうち、再生可能なものの割合は50.0%(2021年は45.4%)でした*。

当社では、安全規制の関係上、製品に触れる容器には再生材を使用していません。このため、リサイクルパレットを使用しているのは一部の保管場所のみとなっています。段ボール包装やスチールドラムには再生材(古紙やスチール材)を使用しています。また、中間バルクコンテナ IBC(Intermediate Bulk Container)、スチールドラム、パレットについても安全上のリスクが見込まれない限り、再利用を進めています。

例えば、Takasago International (India) Pvt. Ltd.は、2,300本の空の原料樽をリサイクルのために許可された業者に送付しています。また、Takasago International Corp.(U.S.A.)では、193ケースの再生紙を使用し、232個のインクカートリッジをリサイクルし、14,700枚の名刺を購入しました。このように、再資源化可能な素材や包装は合理的に活用し、包装や素材の安全性を確保することで、環境負荷の低減を図っています。

※ 再生可能な原材料：再生可能な資源とは、生物学的再生産、自然循環プロセス、その他の積極的な作用により、人間の消費量を超える量の自己補充が可能な天然資源のことです。GRIスタンダード日本版のガイドラインに基づき、再生可能な原材料の使用比率を算出しました。

！ 研究開発

研究開発の方針と取り組み

取締役常務執行役員 研究開発本部長 谷中 史弘



研究開発では、創業精神である「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」、さらには「香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続ける」という企業理念やVision 2040「人にやさしく、環境にやさしく」の下、3つのイノベーション(コンセプト、プロダクト、プロセス)のシナジーや積極的なオープンイノベーションを通じて、より独自性ならびに優位性の高い技術や製品を開発し、人々のQoL(Quality of Life)向上やウェルビーイングに貢献してまいります。

また、SDGsの課題解決に向け、グリーンケミストリーを念頭に置いた環境にやさしい研究開発を引き続き推進しています。環境負荷の低減に向けて、当社独自の触媒技術の活用や最新のバイオ技術の導入、環境負荷の低いプロセス開発を行い、エネルギーや水の効率的利用、温室効果ガス排出量の削減に取り組むと同時に、限られた天然資源の有効利用に向けて、再生可能資源の探索・利用、代替素材開発による天然香料素材の使用量削減、未利用資源の活用などにも積極的に取り組んでいます。

＞ 基本的な考え方

研究開発では、海外R&D拠点と日本の基盤研究部門が連携し、グローバルな課題解決に向けた研究開発活動を積極的に進めています。減塩、減糖、減脂、プラントベースフードへの対応、天然志向や環境にやさしい香料素材への要望など、これらグローバルな課題に応えるべく、海外R&D拠点と一体となった研究開発活動を推進し、当社の技術や製品のグローバル展開を着実に進めてまいります。

イノベーション

より本物感ある風味表現ができる香料作製への挑戦

- Vivid Flavors® Retroma®

気候変動問題解決のために人類はあらゆる取り組みを進めていますが、いまだに問題は解決はできておらず、さらなる努力が求められています。異常気象の影響で香料原料でもある農作物の収穫減少が懸念されています。また、ロシアによるウクライナ侵攻も世界の穀物需要に影響を与えており、食糧危機は大きな問題となっています。

当社は天然農産品の風味をターゲットとした香りの付与だけでなく、近年多くの食品会社が開発に取り組んでいるプラントベースミートなどの代替食品向けの香料も開発しています。そのための香料開発では、香料がどれだけターゲットとする食品に近い風味を表現できるかが重要になります。

その具体的な取り組みとして、人間の鼻で知覚できる重要香気成分を特定するGCO (GC-Olfactometry)と、光学異性体であるキラリティーを持つ香気成分を用いて本物の香りを再現したVivid Flavors®は現在、世界中の食品に広く使用され好評を博しています。

さらなる本物感の追求として、食べ物や飲み物を実際に食べたり飲んだりしたときの風味を再現できる香料の開発に挑戦しています。口腔から鼻に抜けて知覚される香り、いわゆるレトロネーザルアロマを解析・理解し、香料に活用することで、実際に食べているような風味を再現することに成功しました。また、ターゲットとなる食品の香りをより正確に分析するため、分析手法の改良にも努めました。果物などの生鮮食品の香りは、分析作業中でも化学的に変化していきます。この改良手法を適用することで、不快な香りへの変化を大幅に軽減し、より本物に近い風味を再現するための分析情報を得ることができます。

当社はすでにこれらの香料を新しいVivid Flavors® Retroma®ブランドとして拡販を行っています。ターゲットとする食品の喫食時に近い風味表現ができる香料の拡販を通じて、収穫量が減少する特定農産品の風味を補い、持続可能な代替食品の風味向上を通じて人々の暮らしに貢献します。

新しいナチュラルフレグランス素材 ～和ハーブ～

当社では、Aromascope™技術を用いて、日本の植物のヘッドスペース(植物の周囲の空間。植物から放出された香気成分を含む)を捕集、分析し、自然な香りを再構築する取り組みを継続的に行っています。自然の香りから、新たな香りの機能や素材を発掘し、創香のインスピレーションを得ることを目指しています。

フレグランス市場においては、ナチュラルコンセプトはすでにトレンドとなっていますが、新型コロナウイルス感染症によって、その人気や需要がさらに高まりました。拡大と多様化が進むナチュラル市場において、次なる素材として“日本の植物”への関心が高まっています。私たちも、数年前に日本の木の香りの再現と、生理心理効果検証を行いました。続くターゲットとして和ハーブへの取り組みを行いました。

海外では、2013年に和食がユネスコ無形文化遺産へ登録されたことで和食ブームが加速、オリンピックなども影響し、和食材や和ハーブへの関心や認知度が非常に高まりました。しかしながら、ユズや緑茶といったおなじみの素材を除き、グローバルでは和ハーブはまだマイナーな存在であり、フレグランスへの香りの活用も少ない状況です。

このプロジェクトでは、厳選した和ハーブの新鮮な香り立ちにフォーカスしました。和歌山の有田川町産ブドウ山椒Sansho (*Zanthoxylum piperitum*)、京都の大原の原種に近い赤シソ、秋田の三関の根セリなど、産地や品種、生育環境、そして香りにこだわった、8種の和ハーブを、ベストなシーズン=旬に入手して、刻む、ちぎる、もむなど、それぞれに合った前処理で香りを立たせ、最適な時間で香りを採取しました。Aromascope™技術によって、作りたての和食を前にした時のような、ハーブの繊細かつ生き生きとしたキャラクターが香り立つわずかな時間の香り「瞬間フレッシュアロマ」を捉えることが可能となります。得られた分析データと創香技術によって、みずみずしくフレッシュな香りを再現することができました。

一瞬のきらめきの香りを表現した新しい和ハーブアロマと、それを活用したユニークなフレグランスを通じて、個性あふれる日本のハーブの魅力と新たな価値を世界に向けて発信していきます。

再生可能原料を活用し、環境にやさしいアロマイングリディエント開発

当社のアロマイングリディエント開発の歴史は100年以上前にまでさかのぼりますが、「自然との共生」は当社のDNAです。2014年には、業界でいち早く製品のバイオベース指標を公開し、加えて現在は、生分解性やISO16128およびNature Identicalの各指標のステータスを拡充しました。また、2021年にはさらにいくつかの製品がBioPreferred製品としてUSDA(米国農務省)から承認されました。

近年、高砂香料グループでは、さらにより多くの製品に再生可能原料を活用し、天然物に見いだされた生分解性の高い光学活性香料素材であるBiomuguet®やBiocyclamol®を開発、商業展開しています。また新たに、光学活性の香料素材としてウッドアンバー素材であるDextramber®も不斉合成技術を活用したChiraroma®として上市してきました。石油化学由来製品を再生可能原料や植物由来原料に切り替えるBIOSWITCH®の取り組みに加え、環境にやさしい生分解性のある香料素材の開発、および触媒反応を組み入れたエネルギー効率の高いプロセス開発に取り組んでまいります。

コーヒーの風味から惹起される感情の用語リストとマップの開発

昨今、消費者の感情に訴求する商品の開発が重要視される一方で、コーヒーの風味から惹起される感情を日本語で表現することに関する検討は十分とは言えません。当社では一般パネルとフレーバリストそれぞれの感情を基に、コーヒーの風味に関する感情語リストを作成しました。またそのリストを用いて喫飲評価を実施し、コーヒー豆の特徴(焙煎度、オリジン)と感情がひも付くマップを取得しました。これにより、一般パネルとフレーバリストのコーヒーの風味に対する感情的な捉え方について共通点と相違点を見いだしました。官能評価や市場調査の際、本検討で得られたリストやマップを評価者・評価目的に応じて使い分けることで、なじみのある感情表現での評価が可能となり、データに基づく価値提案につながるものと考えております。

本取り組みは「日本官能評価学会 2022年大会」で学会優秀発表賞を受賞しました。今後も引き続き香りと感情に関する研究をより発展させていくことで、人々のQoL向上やウェルビーイング実現に貢献することを目指してまいります。

グリーンケミストリー

プロセスイノベーション

ーグリーンな世界の実現に向けて

高砂香料グループでは、研究開発から製造に至るまで、「グリーンケミストリーの12箇条」を常に念頭に置いて活動を行っており、原材料の選択、製造および使用、廃棄までの全プロセスにおいて環境負荷の低減に向けた取り組みを進めています。持続可能で再生可能な原料の使用、効率的な化学変換、廃棄物の削減、省エネルギー化を目指した技術開発・導入などに注力しています。

高砂香料グループの主力合成工場である磐田工場の敷地内に置かれたプロセス開発研究所では、製造部門と緊密に連携し既存製品の工程改良、新規製造品目の立ち上げを行っており、安全の確保やエネルギー的に有利なオペレーションの実現につなげるべく、化学工学の専門家による反応工学的なデータの収集が行われています。その成果として、蒸留シミュレーターおよびプラント情報管理システムを用いて香料重要中間体の蒸留条件の最適化を検討し、生産性を12%向上することができました。また昨期、製品化に至った医薬品中間体の一つでは、反応条件の改良により製造プロセスで使用する有機溶媒使用量を従来法に比較して48%削減しています。当社のキーテクノロジーである不斉水素化反応やカップリング反応に使用する触媒はロジウム、ルテニウム、パラジウムなどの貴金属を使用しています。天然資源の持続可能な利用のために、触媒の製造プロセスの最適化および触媒使用後の貴金属回収についての取り組みを強化しました。今後も環境負荷の低減に向けた検討を継続的に進めます。

優れた触媒の開発

ー環境負荷低減への取り組み

触媒反応の利用は「グリーンケミストリーの12箇条」の一つであり、原材料、廃棄物、エネルギー消費を削減し、より安全で無害な原料の使用を可能にします。当社では、1983年の触媒を用いた ℓ -メントール製造プロセスの完成以来、様々な機能を持つ触媒を開発し、製造に活用してきました。

現在も、当社では触媒反応の開発を精力的に進めております。光学活性 β -アミノアルコールは、生理活性物質の合成に用いられる有用な化合物です。光学活性 β -アミノアルコールの最も直接的な合成方法の一つに、光学活性 α -アミノエステルを還元する方法があります。この変換には化学量論量の金属ヒドリドを用いる還元がよく使用されます。しかし、この方法は廃

棄物が多いだけでなく、基質に用いる光学活性 α -アミノエステルを前もって調製しておく必要があります。我々はRUCY[®]触媒を用いることにより、原料にラセミ体の α -アミノエステルを用いても動的速度論的分割を経てエステルの不斉水素化が進行し、高活性かつ高選択的に光学活性 β -アミノアルコールに変換できることを見だしました(*Org. Lett.* 2023, 25, 2355–2360)。本触媒反応系は基質一般性が高く、様々な光学活性 β -アミノアルコールの合成に適用可能で、原材料や廃棄物の削減が期待されます。

▶ ホワイトバイオテクノロジー技術を活用したアロマイングリディエント 開発

近年のナチュラルフレーバー素材に対する市場ニーズの高まりにより、バイオ技術を活用した素材開発は一層重要となっています。当社では、フレーバリストの要望を満たしたスペシャリティ素材の開発を目指し、EUナチュラルやコーシャ認証、ハラール認証の規制を満たすプロセス開発に注力してきましたが、近年、フレグランスでもバイオベース製品や環境にやさしい香料素材が求められており、バイオものづくり、ホワイトバイオテクノロジーへの期待はますます増加しています。

ナチュラルアロマイングリディエントの製造は、関連子会社である高砂フードプロダクツ株式会社や2016年にグループ化された米国Centre Ingredient Technology, Inc. (CIT)などで行われています。CITは高度な製造技術および試作設備を有し、正確な反応制御やモニタリングによる流加培養も可能であり、薄膜蒸留装置に代表される高い精製技術も有しています。CITでは主要な製品としてgamma-decalactone、gamma-octalactone、gamma-nonolactone、phenylethyl alcohol、hexanalなどを製造販売していますが、2022年には新たに当社のスペシャリティ素材の製造も開始されました。

当社では、バイオエコノミー社会の実現を目指し、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の「カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発」に神戸大学と共同で取り組んできましたが、2022年度には新たに「カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発/研究開発項目[3]産業用物質生産システム実証」事業に参画し、さらなるバイオエコノミー社会への貢献を推進します。

品質保証

▶ 基本的な考え方

当社は、お客様の品質と安全に対するニーズやご要望にお応えしながら価値あるパートナーとしてお客様と共に歩み続けています。

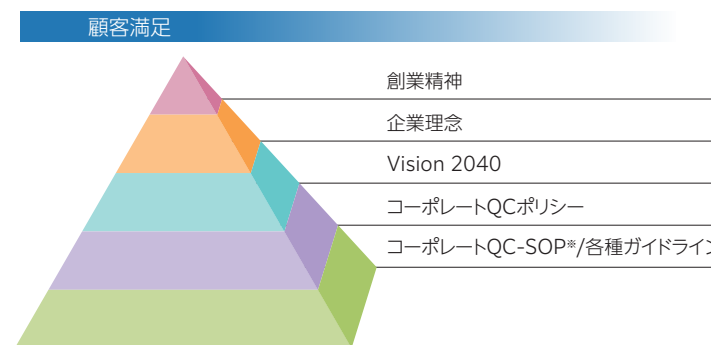
品質保証部門の使命は、政府機関、顧客、また業界団体により定められた法規制および安全基準に準拠した、安全・安心かつ信頼性の高いフレーバー、フレグランス、アロマイングリディエント、ファインケミカル製品を提供し続けることです。この使命を達成するため、「クレームゼロ/不合格ゼロ/間違いゼロ」を追い続けることをお約束します。

▶ 品質保証体制

品質保証部門は独立した組織であり、「高砂香料グループ品質保証理念」の下、各国の品質保証部門が一つになった「One品質保証体制」を構築しています。

この体制には、本社機能としてグローバルQCセンターおよびグローバル法規センターを配置し、各国の品質保証部門と密接に連携を取っています。また、コーポレートSOP*と各種ガイドラインの作成を行い、グループ全社で標準化された業務フローに基づき適切な形で品質保証活動を行っていることを確認しています。

このようにして、高砂香料グループは世界中の全てのお客様に、ご満足いただける品質を提供できるよう体制を整備しています。



※ SOP: Standard Operating Procedureの略で、標準作業手順書のことを指す。
業務を均質に遂行できるように作成された作業手順書。

＞ QCポリシーおよびガイドライン

コーポレートQCポリシーは、グローバルで一貫した品質理念を浸透させるべく、創業精神、企業理念、Vision 2040を踏まえ、お客様の期待にお応えできるよう策定されています。

全ての事業部門および全ての地域の品質管理部門において詳細な品質管理手順を標準化するために、コーポレートQCポリシーを上位に置く形でグローバルQC-SOPを補完文書として作成しています。また、より詳細な業務運用が書かれた各種ガイドラインは、各国の品質管理手順書および運用にも組み込まれ、グローバルで統一した品質管理ができる体制を整えています。

＞ 国際会議

お客様や市場のニーズに合った安全・安心な品質を提供していくために、定期的に品質保証部門の国際会議を開催し、最新の法規制への対応やQCポリシーおよびガイドラインの更新について協議しています。

また、共通する課題や懸案事項を議論し、解決に向けた取り組みの実施や水平展開を図っています。この会議を通じ、全世界の全てのお客様に同じレベルの品質とサービスが提供できるよう継続的に改善しています。例えば、グローバルQCセンターでは、四半期ごとのWeb会議や半年ごとの国際会議を通して全拠点のQCリーダーと、情報交換、ベストプラクティスの共有と活用、KPIの設定と測定、改善に関する情報共有とその効果等の議論を続けています。

＞ 専門技能トレーニング

品質とサービスをより良いものに改善し維持していくために、グローバルQCセンターが国内外全ての品質管理部門に対し、官能評価や検査技術などに関する様々なトレーニングを実施しています。

このトレーニングシステムは、世界中の全ての顧客に同じ高品質のサービスを提供し、高砂製品が一貫して顧客の全ての要求を満たすか、それを上回ることを保証するための鍵となります。最近のフレーバーQCトレーニングでは、官能検査、ガスクロマトグラフィー、メンテナンス手順、ラボ環境の維持のためのベストプラクティス、さらに特定の分析分野を改善・強化するために、拠点のニーズに応えることも目的としています。加えて、ISO/IEC 17025スキームに基づいた技能試験を実施することにより、検査技能を標準化し、最高レベルで維持するだけでなく、検査担当者の意欲を高めることにつながっています。

フレグランスQCトレーニングでは、天然原料や最終製品の嗅覚トレーニングを行い、それらの複雑な性質や特徴を把握することにより、原料・製品の品質の許容水準を共有するための議論も行われました。トレーニング終了後、テクニカル・レファレンスとして妥当性が確認された参加者は、自らの拠点で日常的な嗅覚トレーニングを支援・指導し、フレグランスQCセンターの官能面での窓口として活動します。全てのトレーニングの結果は各拠点の責任者へ迅速に共有されると同時に、必要に応じて課題設定が行われる仕組みになっています。これらのトレーニングは、世界中のお客様に最高品質の製品を提供し続けるための重要な取り組みであり、高砂製品の品質の標準化に寄与するだけでなく、「One-TAKASAGO」としてのQCチーム間のチームワークの向上にもつながっています。

＞ コンプライアンス

法令・規制を遵守することをコーポレートQCポリシーに掲げています。また高砂香料グループは安全かつ持続可能な化学物質の使用を進める欧州REACH規制を全面的に支持しています。EU内で製造または輸入する化学物質の最終登録期限であった2018年には、全ての関連する物質を期限までに登録し、規制実施に積極的に貢献しました。REACH規制は継続的な取り組みが必要であり、登録した化学物質を安全かつ持続可能に使用するために必要な追加データをECHA (European Chemicals Agency/欧州化学品庁) および関連機関に提供する体制を整えています。また韓国REACHやトルコREACH等各国管理規制にも焦点を当てて注視しています。グローバル法規センターは、法規制、顧客要求、またFEMA (Flavor and Extract Manufacturers Association/米国食品香料工業会)、IFRA (International Fragrance Association/国際化粧品香料協会)、RIFM (Research Institute for Fragrance Materials/化粧品香料原料安全性研究所)、IOFI (International Organization of the Flavor Industry/国際食品香料工業協会) など業界団体からの基準およびガイドラインの改定に対応するため、継続的に情報収集を行っています。製品が安全・安心かつ信頼されるよう、グローバルでのタイムリーな情報共有を通じてコンプライアンス対応を図っています。

品質保証に関する認証

高砂香料グループは求められた品質を製造し提供できるよう、ニーズに合わせてISO 9001、FSSC22000/ISO 22000など、国際的な品質・食品安全の管理運用のための認証取得を進めています。

最近では、インドネシアにフレーバーおよびフレグランスの製造工場を新設し、2020年3月にISO 9001、そして2020年4月にフレーバーではGFSI承認規格であり、世界の食品関連企業に支持されるFSSC 22000の食品安全マネジメントシステムの認証を取得しました。国内では2022年6月に磐田工場を対象品目の追加という形で認証範囲を拡張しました。このような国際標準システムの導入は、国内外のグループ会社を含む全社的な取り組みであり、国際規格の適切な運用は、グローバルで標準化を推進すると同時に、品質とサービスの向上にも役立てられています。

品質監査

品質管理体制をさらに強化するため、グローバルQCセンターは定期的に国内外の製造拠点に対し実地で品質監査を実施し、システムの継続的な改善を図るとともに、定められた要求事項・基準を満たし、高砂香料グループの事業計画・目標・品質管理方針に沿ったものであることを確認しています。

顧客の安全衛生

高砂香料グループの主要な事業は、フレーバー、フレグランス、アロマイングリディエント、ファインケミカルの4部門で構成され、幅広い製品を開発、製造しています。

製品づくりの一環として、全ての製品が顧客の求める安全衛生に適合しているかどうかを常に評価しています。この考え方は、研究開発段階から製品の製造・納入に至るまで適用されています。報告期間に顧客の安全衛生に対する違反は確認されていません。

販売先と表示

高砂香料グループの事業はB to Bビジネスであり、消費者の皆様へ直接販売されることはありません。

フレーバーおよびフレグランスは消費財を製造する得意先に販売され、消費者向け最終製品に使用されています。アロマイングリディエント製品は同業他社にも販売され、フレーバーや

フレグランスの原料として使用されています。ファインケミカル製品は医薬品や化学品を製造するための中間体として使用されています。製品を販売する際には、各種規制や得意先要求事項に応じた製品情報を提供しています。製品情報には通常、次に示す一つ以上が含まれます。

高砂香料グループの製品の製造に使用する原料の情報をもとにする

- 製品の構成
- 安全データシート
- 安全に使用するための情報

報告期間において、製品情報やラベル表示に関する違反は確認されていません。

コーシャ、ハラール対応

地域の文化や習慣を尊重した製品づくりにも積極的に取り組んでいます。

地域の文化や習慣の中には、宗教上の戒律として厳格に遵守しなければならないものもあり、そのような戒律に適合し、安心してお使いいただける製品の拡充に努めています。

宗教上の戒律として代表的なものに、ユダヤ教によるコーシャ、イスラーム教によるハラールがあります。これらは共に「許されたもの」の意味であり、それぞれの信徒たちが安心して生活する上での根本的な意味をもって厳格に遵守するものです。コーシャは主にアメリカを中心に、アメリカの事業所から供給される製品に対応しています。

ハラールは主として東南アジアを中心に、シンガポール、マレーシアの事業所から供給される製品に対応しています。

日本でもアメリカや東南アジアの事業所や得意先に向けた製品や製造中間品を供給しており、コーシャに適合した合成香料や食品香料を供給しています。また、当社の主力製品であるℓ-メントールをはじめとした合成香料製品や食品香料製品についてハラール証明取得品目数を拡大させています。今後も引き続きコーシャ、ハラールに適合した日本製品を増やしていき、高い品質を備えグローバルに地球環境に配慮した、地域の文化や習慣にとっても安心できる製品の製造と供給を今後一層充実させていきます。

投資家の皆様との関わり

健全かつ透明性の高い企業経営による持続的な成長を通じて、適切な利益還元に努めるとともに、国内外の株主・投資家の皆様とのコミュニケーション環境の充実を図っていきます。

適時・適切な情報開示

インベスター・リレーションズ(IR)

高砂香料グループは、株主・投資家の皆様へ積極的な情報開示を行っています。

株主の皆様には、年2回「株主通信」を郵送でお届けしています。投資家コミュニティの拡大に向け、Webサイト内IRページに関連資料やプレスリリースを公開し、皆様に事業内容への理解を深めていただけるようIR活動の向上に努めています。

機関投資家・アナリスト向けには、期末および第2四半期決算発表後の年2回、社長および担当役員による決算説明会を開催しています。内容については、当社Webサイト内IRページで公開しています。

株主総会・株主還元

株主総会

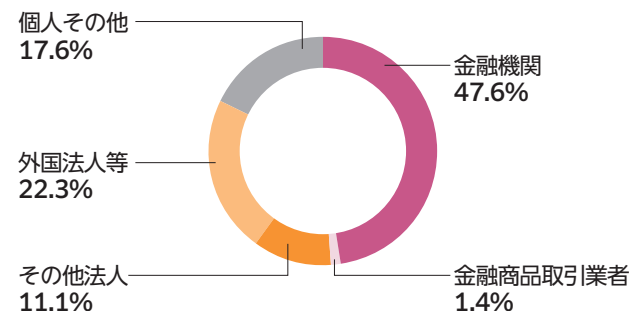
より多くの株主の皆様にご出席いただけるよう、いわゆる第一集中日を回避した開催日程にしています。招集通知の早期発送に努めており、株主総会開催の3週間前までに発送および発送日前までにインターネットで開示しています。また、当日欠席される株主の皆様の利便性向上のため、インターネットによる議決権行使環境の整備も行っています。

株主還元

株主重視の経営を旨とし、より高水準の利益を確保できる経営体質を目指し、安定配当の継続、ならびに業績水準等を勘案した配当を実施することを基本方針としています。この方針を踏まえ、2023年3月期は、中間配当は1株当たり25円、期末配当は45円を実施し、年間70円の配当としました。2024年3月期は中間配当35円、期末配当35円の年間70円を予定しています。

資本政策の中での株主還元は、事業活動や非事業資産の売却などで得られたキャッシュフローを「成長分野への投資」「財務基盤の強化」「株主還元」の3つにバランスよく配分していくことで対応していきます。

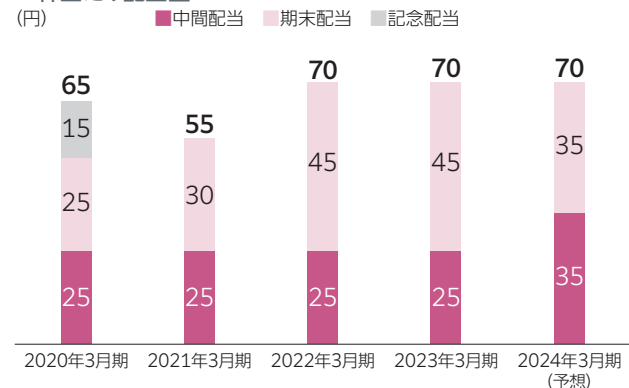
株式分布図(所有者別構成比)



(2023年3月31日現在)

※ 個人その他には、自己株式としての保有分(3.5%)が含まれております。

一株当たり配当金



地域・社会とともに

基本的な考え方

高砂香料グループは、地域の方々と良好なコミュニケーションを図りながら、ボランティア活動や地域交流に積極的に参加しています。また、香料会社の特性を活かし、多くの方に香りへの親しみを深めていただく活動に取り組んでいます。

国内の取り組み

住民組織と協力して香水を作製し、袋井市に寄贈しました

高砂香料グループの一つである高砂フードプロダクツが、袋井市浅羽南地区の住民組織「幸浦地域まちづくり協議会」と協力して「オードトワレ幸浦」を作製しました。袋井市は幸浦地域を含む沿岸部にぎわい創出を目指しており、高砂フードプロダクツは地域活性化の一助になればという思いから香水作りを始めました。幸浦が持つ海の輝きと緑豊かな大地をテーマとして作られた何点かの試作品の中から、地域の住民や看護専門学校の学生らの投票により1点を選定し、完成させました。

製造した香水の一部は袋井市に寄贈しました。大塚市長より「地域の財産となる素晴らしいものができた。地域振興のために有効活用していく」とのお言葉をいただきました。浅羽南部の海岸地帯の呼称である「幸浦」の発信にもなったこの取り組みが、地域の活性化につながればうれしいです。



平塚市の救急協力事業所に登録されました

高砂香料グループの一つである高栄産業が、平塚市内で20社目となる「平塚市救急協力事業所」に登録され、2023年1月18日に平塚市消防署本署において登録証の交付式が行われました。この登録はAED(自動体外除細動器)の適正な維持管理と「普通救命講習」を一定数以上の社員が受講するなどの認定基準を満たしたことで与えられるもので、市



民の救命率向上に寄与する企業として認められた証です。

今後も安全・安心な職場づくりだけでなく、地域にも貢献できる活動を継続していきます。

海外の取り組み

シンガポール

「フードバンク・シンガポール」の支援として、食料提供活動を行いました

新型コロナウイルス感染症の影響で、世界では飢餓や栄養不足の影響を受ける人が増えており、シンガポールでも食糧難が懸念されています。

「フードバンク・シンガポール」は、シンガポールの飢餓撲滅と食料廃棄の削減を目的としたチャリティー団体で、メーカー、流通業者、小売店、消費者などから廃棄される可能性のある食品を譲り受け、ネットワークを通じて食料を必要とする人に提供する活動を行っています。



高砂シンガポールは、CSRプロジェクトの一環としてこの活動を支援しています。従業員が部署単位で協力しながら食料の収集を呼び掛けたところ、10日間で主食、飲料、スナック、缶詰など、52箱もの保存可能な食品が集まり団体に寄付することができました。これだけの食料を集められたことに対する従業員の喜びは大きく、次の活動につなげる気持ちが高まっています。

せっけんの寄付支援活動を行いました

通常、せっけんの試供品はプロジェクトが終わるたびに捨てられています。高砂シンガポールでは、廃棄物を減らすため、私たちは1~2カ月ごとにせっけんの試供品を寄付する取り組みを開始しました。

現在、フレグランスチームでは毎月約10~15kgの固形石鹸を寄付しています。固形石鹸はNGOの協力を得て必要としている地域に届けられます。賃貸アパートや低所得者層に石けんを配布している地元の慈善団体やコミュニティ・グループによると、せっけんは基本的な必需品なので非常に重宝しているとのことでした。



インド

高砂インドは2022年6月9日の世界環境デーを祝いました。環境デーの取り組みの一環として、Capital LandがOne Hub Chennaiのテナントを対象にGreen Drive 2022を開催しています。



ドイツ

高砂ドイツ拠点の従業員も被災した壊滅的な洪水災害から1年経ちましたが、今でも支援が必要です。高砂ドイツ拠点のサッカー・チームはこれを支援するため、エルフトシュタットで開催されたHelperCup #1に参加しました。集まった募金は、エルフトシュタットにある建築資材寄付店の資材購入に充てられます。

私たちのチームは大会に向けてトレーニングを行い、楽しみながらスポーツへの意欲を燃やしました。同僚たちの声援を受け、4試合中2試合に勝利しました。このイベントを企画したライン・エルフトのヘルパー・グループと、もちろん私たちのチームに感謝します！

フランス

2022年、Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L.はLes Cantines Du Sourireに2,500ユーロを寄付し、3,345食分の朝食と20台のテーブルとベンチを提供しました。同協会は、セネガルのサン・ルイにある学校の3歳から6歳の子どもたち3クラスに朝食を提供する資金を提供しています。学童に朝食を提供することで、栄養不良の問題解決に貢献することが可能です。

文化活動としての取り組み

高砂コレクション®ギャラリー

香りの歴史は5000年以上ともいわれ、人類は長い歴史の中で独特な香り文化を形成してきました。当社には香り文化を伝える目的でコレクションされた美術品が多数あり、それらを「高砂コレクション®」として一般に公開しています。本社にあるギャラリーでは、日本の伝統芸道を伝える香道具、香炉、香合をはじめ、中国の香炉、古代エジプト、ギリシャ、ローマ時代の香油瓶、そして18世紀から現代に至る香水瓶など約1,000点に及ぶコレクションの中から常時120点余りを展示し、ご来場いただいた方々にご覧いただいています。

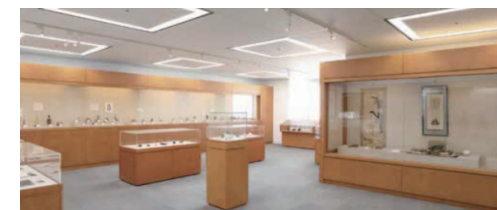
【高砂コレクション®ギャラリーのご案内】

東京都大田区蒲田5-37-1 ニッセイアロマスクエア17F

開廊時間：9:30 - 17:00(入場は16:30まで)

閉館日：土日祝日、年末年始、当社休業日

入場：無料(10名以上の場合は事前予約が必要です)



高砂コレクション®ギャラリーの活動が「This is MECENAT 2022」に認定されました

高砂香料が運営する「高砂コレクション®ギャラリー」が、公益社団法人企業メセナ協会によるメセナ活動認定制度「This is MECENAT2022」において優良なメセナ活動として認定されました。今後も香りの文化活動の支援・発信を通じて、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



当社が協賛に参加しているミュージカル「ハロルド!」がメセナアワード2022優秀賞を受賞しました

当社が毎年協賛に参加している、岡山子ども未来ミュージカル「ハロルド!」が公益社団法人企業メセナ協会が主催する「メセナアワード2022」優秀賞を受賞しました。このイベントは、地域に根差した交流の場をつくり、子どもたちの心の豊かさを醸成していることが高く評価されています。このような素晴らしいイベントに協賛していることを大変誇りに感じます。今後も様々な形で文化活動に貢献します。

ガバナンス

63 コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに対する考え方
取締役会の実効性評価

66 リスクマネジメント

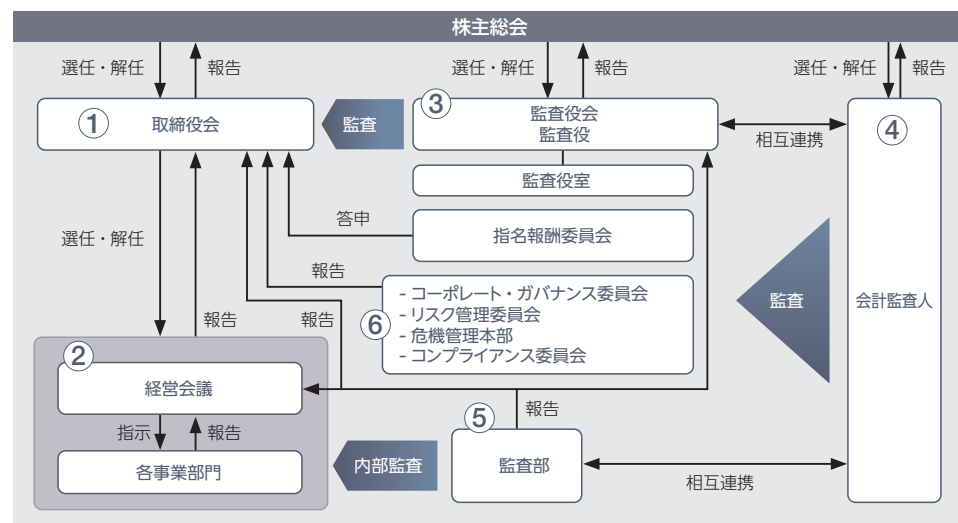
68 コンプライアンス



コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに対する考え方

高砂香料グループは、経営判断の適正性・経営チェック機能および情報開示による経営の透明性を高めることに努め、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指し、取締役会決議に基づき、「コーポレート・ガバナンスに関する基本方針」を制定しWebサイトに公開しています。



① ② 取締役会、執行役員制度

取締役会は、原則月に1回開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催しています。取締役は、経営全般に対する監督機能を発揮して経営の公正性・透明性を確保するとともに、経営戦略および経営計画の策定や重要な投資案件等の業務執行の決定等を通じて、最善の意思決定を行います。一方で取締役の任期を1年とすることで株主総会の信認の機会を十分確保し、経営責任をより明確化し持続的な経営機能の強化も図っています。

取締役による経営判断の効率化と業務執行の迅速化を確保するため執行役員制を導入し、取締役会の企業統治機能と執行役員による業務執行の分化を図っています。議論の場として、原則月に1回経営会議を開催しています。そのうち四半期に一度は海外拠点の執行役員も出席し、グローバルでの経営報告および課題について情報を共有し、議論を行う場として位置付けています。

③ ④ ⑤ 監査役会、監査役、内部監査

監査役会は、原則月に1回開催するほか、必要に応じて臨時監査役会を開催しています。監査役は会計監査人と緊密な連携を保ち、意見および情報の交換を行っています。また当社内部監査部門は内部監査結果を監査役に報告し、監査役は必要に応じて内部監査部門を活用できることとしています。さらに監査役の職務を補助するため、監査役室を設置しています。

監査役が各々の経験を生かして公正・中立的立場から経営への監査機能を発揮するとともに、内部監査部門および会計監査人とも十分連携を取ることで監査役会を一層有効に機能させ、経営者の恣意的判断の排除、任務懈怠の防止、継続的な会社の説明責任の確保にも努めています。

⑥ 公認委員会等

コーポレート・ガバナンス委員会	取締役社長を委員長とし、取締役・執行役員等7名で構成しています。持続的な企業価値の向上を目指し、コーポレート・ガバナンスに関わる重要事項について審議しています。
リスク管理委員会	取締役社長を委員長とし、各本部長によって構成しています。取締役会が損失／危険につながるリスクを総合的に評価・判断できるよう、マネジメント体系を強化し継続的な審議、影響の回避や軽減を図る対策を立案しています。
危機管理本部	緊急を要する有事の際に、本社と国内外拠点が迅速に対応できる体系整備を進めています。重要な指揮・命令がスムーズに伝達できるよう、危機管理本部(本社に設置)と国内外拠点を結ぶ報告・指示ルートを定期的に見直しています。 また、大規模災害や緊急事態などの発生リスクに備え、高砂香料グループでは国内外拠点到標準化したBCP(事業継続計画)の手順整備・策定に取り組んでいます。
コンプライアンス委員会	取締役社長を委員長とし、取締役・常勤監査役9名で構成しています。コンプライアンス体制の確立と徹底を図るために重要事項を審議し、推進しています。

取締役会の実効性評価

当社は取締役会の実効性を高め企業価値の向上を目的に、定期的に取り締役会の実効性評価を行っています。評価結果の概要は当社Webサイトで開示しています。

評価の方法

取締役会の実効性に関し、当社の全ての取締役および監査役に対し段階評価およびコメントを記載する方式の質問票を配布し、無記名方式により全員から回答を得ました。これを集計した結果内容を参考にしながら、取締役会で審議を行いました。なお、質問票における大項目は以下の通りです。

- ・取締役会の構成
- ・取締役会の運営
- ・取締役会の役割・責務
- ・取締役・監査役個人としてのパフォーマンス
- ・取締役会を支える体制
- ・ステークホルダーとの関係

2022年度評価結果の概要

取締役会において、当社の取締役会は全体として実効性が確保されていることを確認しました。

監督機能の有効な発揮については、社外取締役が過半数を占める指名報酬委員会で審議された重要事項が取締役に答申されました。また、社外取締役は、独立した客観的な立場から経営陣および取締役に対して発言・意見を述べるなど実効的な監督を行っており、各取締役は適切に業績を評価し意思決定を行っています。

さらに、地政学的リスクの高まりによる影響への迅速な対応など、当社取締役会として取り組むべき課題に適切に対応しました。

実効性向上に向けた取り組み

企業戦略等会社の方向性に関する建設的な議論の推進については、引き続き当社取締役会の課題として、今後もさらなる充実を図っていく必要があることを確認しました。また、中期経営計画の最終年度に当たることから、取締役会において現状を十分に分析し対応策を検討し、次期3カ年計画への反映やその他の課題への対応を行うことを確認しました。取締役会は、今回の評価結果に基づき十分な議論を重ね、課題を解決することで取締役会の実効性を高め、さらなる企業価値の向上に取り組めます。

＞ 報酬制度

基本方針

- ① 業務執行取締役の報酬等は、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けて、当該業務執行取締役の意欲をより高めることのできる、適切、公正かつバランスの取れたものとしします。
- ② 業務執行取締役の報酬等は、前項の方針に従い、株主総会で決議された額の範囲内で、一部業績連動の要素を反映させ、かつ、中長期的な業績と連動させるものとし、指名報酬委員会からの答申内容を尊重し、取締役会で決定するものとしします。
- ③ 社外取締役の報酬等は、社外取締役の職責を反映した定額の固定報酬のみとし、株式関連報酬その他の業績連動型の要素は含まないものとしします。

固定報酬

固定報酬は、各取締役の職責や役位に応じて毎月支給する報酬であり、個々の支給水準については、業績、過去実績、従業員給与の支給水準および他社の支給水準等を勘案して支給額を決定します。

変動賞与

業績連動報酬(賞与)は、会社業績や各取締役の経営への貢献度に応じて毎年一定の時期に支給する報酬であり、各事業年度の連結売上高、連結営業利益および親会社株主に帰属する当期純利益等の業績指標に基づき、さらに各取締役が設定した重点施策に対する達成度等を総合的に勘案して支給額を決定します。

業務執行取締役の報酬体系

業務執行取締役の報酬は、固定報酬、主として短期業績を反映する業績連動報酬としての賞与および株主との価値共有の一層の促進を通じて中長期的な企業価値向上に資する報酬体系としての株式報酬等で構成されます。各報酬の構成比(賞与が満額支給された場合の構成比)は、原則として、概ね、固定報酬(60%程度)、業績連動報酬(賞与)・(20%程度)、株式報酬等(20%程度)となるように設定します。

取締役の個人別報酬内容の決定

取締役会は、取締役の個人別の報酬の支給額の決定のうち、各取締役の固定報酬および業績連動報酬(賞与)の額の決定について、代表取締役に一任する旨の取締役会決議を行い、代表取締役にその具体的内容について委任します。

なお、報酬額の決定に際して、代表取締役は、指名報酬委員会からの答申内容を尊重します。

リスクマネジメント

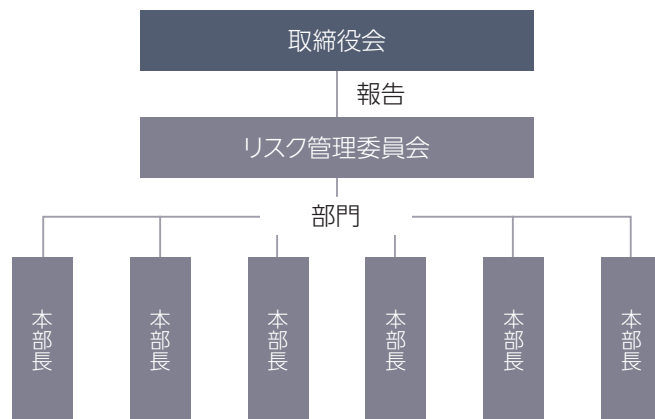
リスクマネジメントの考え方

高砂香料グループは、環境や社会だけでなく、事業の持続可能性も大切にしています。全てのステークホルダーに対する責任を果たすため、事業の安定性に影響を及ぼす可能性のあるリスクを定期的に監視・特定し、ステークホルダー価値の最大化に努めています。事業部長で構成されるリスク管理委員会では、事業継続を阻害する潜在的なリスクを特定し、その予防策を策定・検討しています。特定されたリスクは取締役会で報告され、さらに検討されます。私たちは、以下の各リスクを最適な方法で軽減するための施策を継続的に開発・実施していきます。

リスク評価・管理の推進

当社は、リスク管理委員会がその影響を検討した後、財務状況と経営に影響を与える可能性のあるリスクを特定し、評価します。当社製品は多くの最終製品の原材料として使用されており、生産停止は多くの最終製品の供給に影響を与えるため、生産継続に影響を与える可能性のある問題は大きなリスクであると考えています。そのため、特定されたリスクごとに対策を検討し、定期的に見直しています。例えば、在庫量や納期などの生産管理項目を指標に、供給が止まらないよう数カ月分の安全在庫を維持する在庫管理を実施しています。

リスク管理委員会体制図



事業リスク

当社グループの経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには、重要項目ごとに以下のようなものがあります。ただし、全てのリスクを網羅したものではなく、現時点では予見できないまたは重要と見なされていないリスクの影響を将来的に受ける可能性があります。このような経営および事業リスクを最小化するための様々な対応および仕組み作りを行っています。

この事業リスクは有価証券報告書(2023年6月)に記載されているものです。

リスク項目	関連するリスク	主要な取組み
気候変動に係るリスク	<ul style="list-style-type: none"> 当社グループが事業展開する各国において、気候変動に起因する環境規制、新たな環境税等の賦課や、得意先からの環境に関する要求に対応できない場合、当社グループの業績及び財務状況に影響を与える可能性 温室効果ガスによる地球温暖化が引き起こす気候の変動ないし極端現象、あるいは不規則周期に訪れる天候不順が天然原料の調達に影響を及ぼし、原料価格の高騰を招く可能性 	<ul style="list-style-type: none"> 当社グループは、Vision 2040「人にやさしく、環境にやさしく」を掲げ、気候変動をサステナビリティ経営上の最重要課題の一つと認識。TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)への賛同を表明し、提言に沿った行動計画を策定し公表 外部機関との連携、情報収集を推進。温室効果ガス排出削減に関しては、Science Based Targets initiative (SBTi)基準に則った目標を設定 再生可能原料を活用したグリーンケミストリーを中心に、環境に適応した生産プロセス及び製品の開発を推進 各事業所における、エネルギー使用量の削減活動の継続及び再生エネルギー利用の促進
原料調達に係るリスク	<ul style="list-style-type: none"> 世界景気、需給バランス、異常気象、為替変動、インフレーション等の影響により天然原料をはじめとする原料価格が高騰した場合、計画した利益を得られない可能性 地政学的リスクや購入先の事故等によりサプライチェーンが分断され供給責任を果たせず経営成績に影響を及ぼす可能性 サプライヤーのコンプライアンス違反等サプライヤーリスクが顕在化した場合、当社グループの財務状況が悪影響を被る可能性 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内のネットワークを活用し、原材料の互換性を高めると共に、複社購買等調達手段の多様化を推進 「高砂香料責任ある調達ポリシー」を制定し、ポリシーに基づいた調達活動を推進。さらに、持続可能で倫理的な調達を推進する外部イニシアチブに参加 サプライチェーンにおける人権デューデリジェンスを実施し、人権、労働、環境、腐敗防止の分野における調達活動のリスクと潜在的な影響を調査。悪影響を及ぼす可能性が確認された場合は改善計画を立て、サプライヤー等のステークホルダーと連携することにより是正

リスク項目	関連するリスク	主要な取組み
事業のグローバル化によるリスク	<ul style="list-style-type: none"> 当社グループが事業展開する各国において、法律・規制・税制の大きな変化、テロ・戦争等の政治的・経済的混乱、感染症の蔓延等の社会的混乱などによる、現地の生産活動や販売活動へ影響を及ぼす可能性 	<ul style="list-style-type: none"> 当社グループの業務に関連する各国の政治・経済情勢や法規制の動向等に関する継続的な情報収集
経済情勢・為替レートの変動に係るリスク	<ul style="list-style-type: none"> 日本や海外の主要市場における将来の景気の後退又は減速等の経済不振が当社グループの製品に対する購買力や消費者需要に悪影響を及ぼす可能性 経済状況が低迷する場合、消費者が嗜好品等の買い控えを行う可能性 外貨建てで運営を行う海外連結子会社の比重が高くなることにより、為替レートの変動による円換算後の連結財務諸表が影響を受ける可能性 	<ul style="list-style-type: none"> 国や地域、事業ポートフォリオの拡充によるリスク分散 主要ビジネスの基盤を強化し、経済不振等に対する耐性を強化 為替変動を織り込んだ収益計画
新製品の研究開発に係るリスク	<ul style="list-style-type: none"> 新製品の開発が著しく遅延、あるいは研究テーマが実用化されない場合、競争力が低下し、当社グループの経営成績ならびに財政状態に悪影響を被る可能性 技術及び知的財産の陳腐化に伴う競合他社の参入により、既存製品の市場におけるシェアが縮小するリスク 	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究機関、学術機関とのオープンイノベーション、AIの活用等を通じて多面的な研究開発を推進 先端科学による競争力のある新たな技術の創成及び実用化 海外研究開発拠点と国内の基礎研究部門の協働による効率のかつスピーディな研究開発の推進 新規技術の特許対応など知的財産戦略の実行 SDGsへの貢献を意識した製品の開発、医薬品中間体の供給等持続可能な社会への貢献を通じた企業価値の向上
販売に係るリスク	<ul style="list-style-type: none"> 競合他社の買収等による業界再編の影響により当社の相対的な優位性が低下する可能性 グローバル展開する得意先からのコアサプライヤー認定獲得競争により、業績に影響を及ぼす可能性 競合他社の参入により既存製品の市場シェアが低下する可能性 	<ul style="list-style-type: none"> 当社の独自性を活かした製品開発による付加価値の提供及び競合他社比優位となるような商品・差別化されたサービスの提供 高い技術力を生かしたスペシャリティの開発による競争優位性の維持

リスク項目	関連するリスク	主要な取組み
製品品質に係るリスク	<ul style="list-style-type: none"> 重大な品質クレームやトラブル、製品に対する安全性や環境問題への懸念が生じた場合、リコールによる金銭的損失の他、得意先等ステークホルダーからの信用低下につながる可能性 	<ul style="list-style-type: none"> 当社グループのビジネスへの信頼の原点となる品質管理に対しては、従業員への研修を継続、製造現場での作業ルールを徹底 悪意ある異物混入、物流上の破損、誤出荷、ヒューマンエラーによる工程内不適合など多様な事象を想定し対策を策定、管理体制強化に注力
事故・災害に係るリスク	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害や火災・爆発等の災害事故、感染症パンデミック等により事業活動に支障が生じる可能性 当社グループだけでなく、原料サプライヤーにて発生した事故等により生産が減少し、原料価格の高騰を招く可能性 	<ul style="list-style-type: none"> 災害や事故等への従業員の意識を向上させ、災害予防のための施策を実施。感染症等予防の施策及びリスク分散の徹底 危機管理体制の整備及び適切な運営により事業の継続や早期復旧のための取組みを推進 サプライチェーンにおける複数購買の推進や各種施策の実施によるリスクの軽減
情報セキュリティに係るリスク	<ul style="list-style-type: none"> 不正アクセスやコンピュータウイルスへの感染等によるデータ改ざん・消失、高度化するサイバー攻撃によりシステムの利用妨害や一時的障害が発生した場合、業務の停滞により業績及び財務状況に影響を与える可能性 当社グループの保有する企業情報及び個人情報流出により問題が発生した場合は、社会的信頼の低下等により業績に影響を与える可能性 	<ul style="list-style-type: none"> 当社グループの情報システムに対する外部からの侵入を検知するシステムの導入など最先端技術によるITセキュリティの強化 標的型メールに対する訓練、定期的な情報セキュリティ研修の実施等継続的に社員教育を実施
法令の遵守に係るリスク	<ul style="list-style-type: none"> 現行法令の変更や新たな法令などが追加された場合、事業活動に制限、対応のための投資など、業績に影響を及ぼす可能性 将来的に品質、安全、環境、化学物質等に対する法的規制が強化され、新たな対策コストが発生する可能性 	<ul style="list-style-type: none"> 当社グループが事業展開する各国において、環境、化学物質、会計基準や税法、労務、商取引など様々な関連法令に従った業務の実行 国内外の法執行機関の運用状況に関する情報収集による法令遵守 法令等の改編の分析を踏まえた機動的対応 企業憲章及び行動規範の周知、及びコンプライアンスに関する定期的な社内研修の実施

リスク項目	関連するリスク	主要な取組み
人材に係る リスク	<ul style="list-style-type: none"> グローバルに事業を展開する上で、様々な人種・国籍や文化を持つ従業員の多様性を尊重したダイバーシティ経営を行っているが、その人材の有機的な活用ができないリスク またそれぞれの地域の事業に必要な資質、能力をもった人材を確保できないリスク 	<ul style="list-style-type: none"> 各国拠点間での人材の異動を積極的に推進することによるグローバル人材の育成 グローバルレベルでの人事異動による適材適所の推進 日本発、アジア発の唯一のグローバル香料会社という特徴を生かしたグローバル市場での人材確保

▶ 危機管理

高砂香料グループは、起こり得る災害や緊急事態に備えてグループ全体で必要な予防措置を講じることができる事業継続計画(BCP)を含む危機管理体制を確立しています。

全ての手順は、危機発生時にその影響を効果的に最小限に抑え、直ちに通常業務を回復するために役立ちます。危機管理本部は東京本社内に設置されます。緊急を要する有事の際は、発生場所を問わず、危機管理本部が会議を開催して状況を管理し、指示を出します。

▶ 情報セキュリティ

サイバー攻撃が頻発する中、高砂香料グループは全世界でITセキュリティの強化に取り組んでいます。

技術的対策としては、攻撃者の侵入を防ぐことを目的に、デジタルツールや認証システムを導入しています。ソフト面では、研修や通知を通じて、従業員の意識を継続的に高めています。

2021年には3,884人(全従業員の内97%)がIT e-trainingを受講しました。

さらに、在宅勤務時には以下をはじめとする安全に接続するためのシステムやデジタルツールも整備しています。

- 自宅からインターネット経由で社内システムにアクセスする際、クラウドシステムを介した安全な接続
- 在宅勤務中でも対応するアンチウイルスシステムのセキュリティパッチの自動更新
- 在宅勤務に配慮したアプリケーションやデジタルツールの使用細則の更新

コンプライアンス

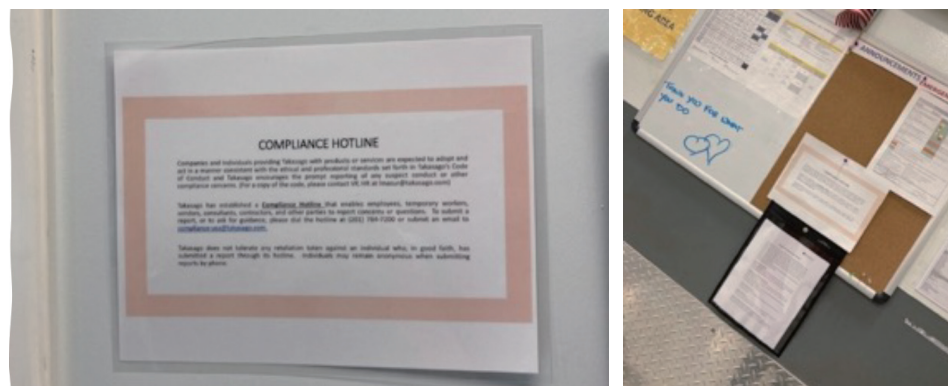
▶ コンプライアンス体制

高砂香料グループは、コンプライアンスを経営の最重要課題の一つと認識し、公正かつ適正な事業活動と有効なコーポレート・ガバナンスの確保を図りながら、コンプライアンス体制の継続的改善に努めます。

▶ ホットラインの設置

高砂香料グループでは、従業員のみならずお取引先様などステークホルダーの皆様がご利用いただける「コンプライアンスホットライン」を設置し、オフィスでの掲示やお取引先様へのご案内を行うなど利用者への制度の周知も行っています。ホットラインに提出された全ての情報は極秘に扱われます。

2022年の相談件数はグループ全体で16件でした。



内部通報窓口「明日への窓」

高砂香料グループの国内(関連会社含む)拠点では、当社の業務に従事する全ての者が利用できる相談窓口「明日への窓」を設置しています。内部通報の対応内容はコンプライアンス委員会に報告することにより、通報者からの信頼性を向上させ、内部通報の促進をはかる運用としています。また、従業員等が通報・相談したことを理由に不利益な取り扱いを受けないことを社内規程に定めています。

＞贈収賄防止の取り組み

高砂香料グループは、企業による贈賄行為が公正な競争を阻害するものであり、企業の信頼を大きく損なうものとして認識しております。この認識の下、「高砂香料グループ贈収賄防止ポリシー」を設け、事業を行う国および地域の贈収賄法規制を遵守し、贈収賄を例外なく禁止することにより、高砂香料グループ各社の従業員および役員による贈賄行為を防止し、公正かつ倫理的な事業活動を行うことを徹底しております。

「高砂香料グループ贈収賄防止ポリシー」では教育研修の実施や相談・通報体制等の整備を定めています。

＞反社会的勢力排除の取り組み

反社会的勢力に対する姿勢を「企業憲章・行動規範」「サプライヤー行動規範」に明記しており、グループ全体のみならず、サプライチェーンにも働き掛けを行い反社会的勢力排除に取り組んでいます。さらに、東京都暴力団排除条例に対応して、取引基本契約書に反社会的勢力排除条項を盛り込んでいます。

＞倫理的監査

持続的な企業運営を行うためには、私たちは自社のビジネス慣行を理解し、企業倫理を高め、社会的責任の原則に準拠していることを確認する必要があります。当社は、SMETA*を活用し、自社拠点の第三者監査機関による倫理監査を実施しています。SMETAによって、自社拠点のコンプライアンスを適切に確認し、監査結果や指摘事項に従い改善に努めています。

高砂香料グループでは2022年度に主要製造拠点10拠点でSMETAを実施しました。当社では、SMETAを全世界で定期的に受ける計画を実施しており、2018年度から2022年度までの5年間、当社の全ての主要製造拠点(100%)で実施しました。SMETAは、国際労働機関(ILO)が定めたETIベースコードに基づき、以下の項目をチェックしています。

[SMETAにおける主な監査事項]

- ・適切な労働・雇用条件
- ・差別やハラスメントがないこと
- ・結社の自由と団体交渉権の尊重
- ・安全かつ衛生的な労働環境
- ・環境基準が地域や国の法律や要求事項を満たしていること
- ・コンプライアンス(贈収賄、汚職、あらゆる不正なビジネス慣行)について、地域や国の法律や要求事項を満たしていること

これらの監査で見つかった全ての問題は修正され、対処されています。今後もSMETAを実践し、倫理的な企業文化を構築していきます。

※ SMETA: Sedex Members Ethical Trade AuditはSedexが設計した倫理取引監査基準であり、世界で最も広く使われている社会監査基準の一つです。SMETAは、4つの柱である①労働基準、②安全衛生(H&S)、③環境、企業倫理の領域をカバーしています。

倫理監査に加えて、サステナビリティ評価機関であるEcoVadisのSAQアンケートを通じてコンプライアンスをレビューしています。例えば、質問事項の一つとして、全業務範囲において連続7日間の範囲内で24時間の休憩を取得していることをSAQ対応を通じて確認しました。

税務コンプライアンスの取り組み

当社グループは、納税を企業が果たすべき最も基本的かつ重要な社会的責任の一つと認識しており、適正な納税が、事業を行う国や地域の発展に重要な役割を果たしていると考えております。

- 租税回避を目的とした税務プランニングやタックスハイブンの利用はせず、各国の法令および規則や、経済協力開発機構(OECD)が示すガイドライン等を遵守しています。
- 外部専門家や他部門との連携を強化しつつ、適切な人材を確保・育成することで、納税コンプライアンスの向上、税務リスク低減を果たせるような体制を構築しております。また、各国税務当局からの指摘、税務訴訟などの状況を共有することで法令の遵守、リスクマネジメントの強化を図っています。
- 各国の税務当局と良好な関係を構築・維持するとともに、当局の要請に誠実に対応しています。また、適用される法律および規制に基づき要求される情報を適切に開示し、各国の税務当局に対して、透明性と信頼を確保するよう努めています。

ESG ハイライト (外部評価・ESG投資インデックス)



DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

Asia-Pacific Climate Leaders 2023

<https://www.ft.com/climate-leaders-asia-pacific-2023>



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

外部団体・イニシアチブ

高砂香料グループは、以下のようなサステナビリティ関連団体と連携し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを支援しています。

- American Chemical Society
- CDP
- EcoVadis
- European Flavour Association (Executive Board)
- Flavor and Extract Manufacturers Association (Board of Governors)
- International Fragrance Association (Board of Directors)
- International Organization of the Flavor Industry (Board of Directors)
- Japan Business Federation
- Japan Chemical Industry Association
- Japan Climate Initiative
- Japan Flavor & Fragrance Materials Association
- Japan Food Additives Association
- Japan Sustainable Palm Oil Network (JaSPON)
- Mint Industry Research Council
- Monell Chemical Senses Center
- Natural Renewable Stewardship Circle
- Rainforest Alliance
- Research Institute for Fragrance Materials (Board of Directors)
- Roundtable on Sustainable Palm Oil
- Science Based Targets initiative (SBTi)
- Sedex
- Syndicat National des Fabricants de Produits Aromatiques
- The Global Alliance for Sustainable Supply Chain
- The Sustainable Vanilla Initiative
- UN Global Compact

会社概要

商号	高砂香料工業株式会社 (英文表記:TAKASAGO INTERNATIONAL CORPORATION)
本社	〒144-8721 東京都大田区蒲田5丁目37番1号 ニッセイアロマスクエア17F
電話	03-5744-0511(代表) FAX 03-5744-0512
設立	1920(大正9)年2月9日
代表者	代表取締役社長 榎村聡
事業内容	フレーバー、フレグランス、アロマイングリディエント、 ファインケミカルの製造・販売(輸出入を含む)
売上高(連結)	186,792百万円(2023年3月期)
資本金	92億円
従業員数	3,913名
海外事業所	27の国と地域
研究所	13
工場	25

報告書について

発行

2023年11月

対象範囲

高砂香料グループ(連結子会社および持分法適用非連結子会社を含みます。)

対象期間

2022年度

なお、本報告書における「年度」とは以下の通りです。

日本:2022年4月1日から2023年3月31日まで。

その他は2022年1月1日から2022年12月31日まで。

- 対象期間が異なるデータについては、対象期間を記載しています。

- 一部最新情報を含みます。

第三者保証

GHG排出量データについては、第三者保証を受けています。

参考ガイドライン

グローバル・レポーティング・イニシアチブ(GRI)スタンダード